



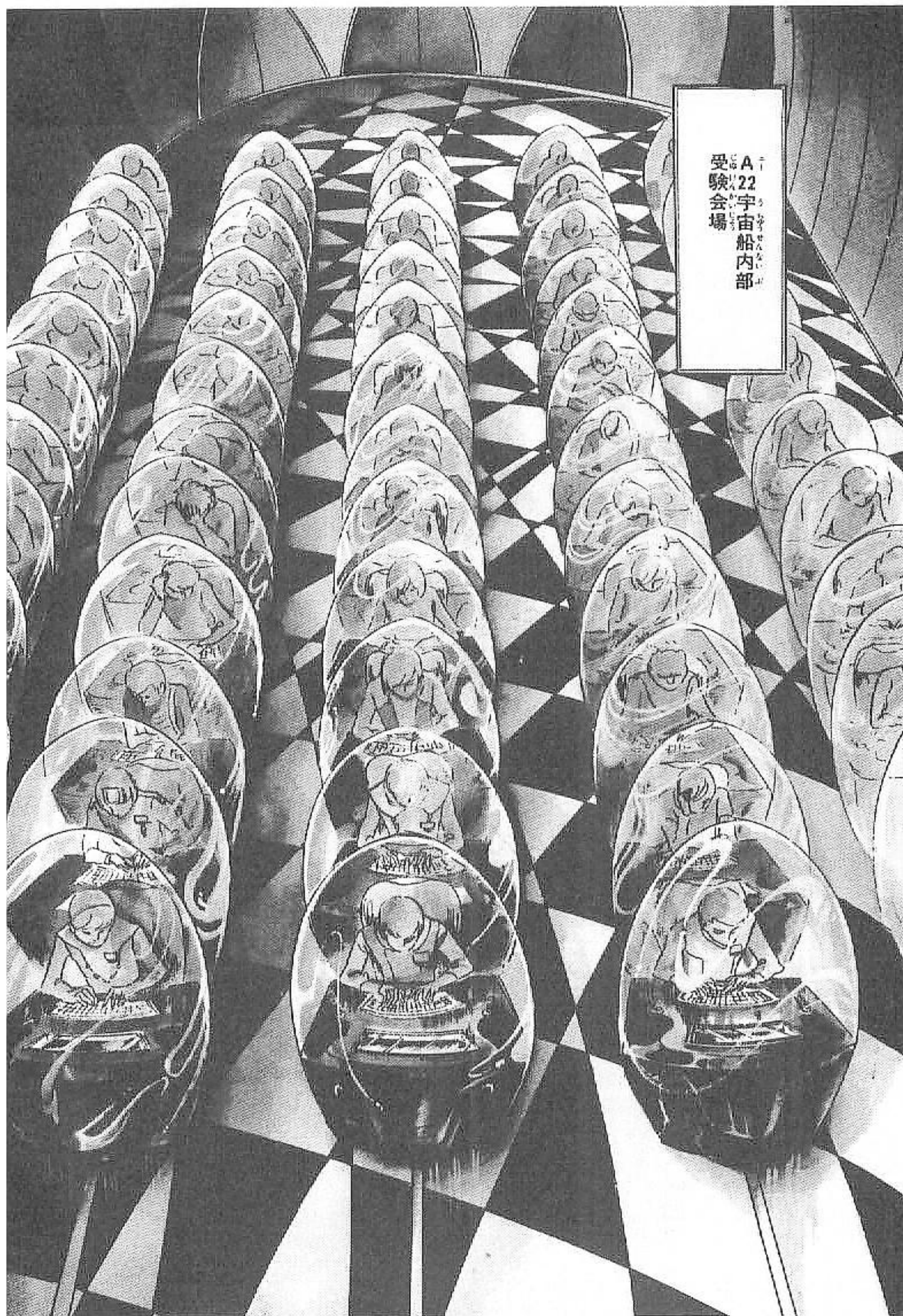
地球概略史

地球においてワープ航法と反重力の発見は、宇宙旅行を驚異的に促進させた。
それから200年のあいだに地球は51の植民惑星を持つにいたったが、
自治を望む惑星移民たちと、地球連邦政府の小ぜりあいとは、たえることがなかった。
が、ある惑星での異星人の発見にともない、異星人との最初の接触がおこると、
この新事態に対処して、地球人は一致団結。
地球連邦と51の植民惑星との総合政府・テラを発足させる。



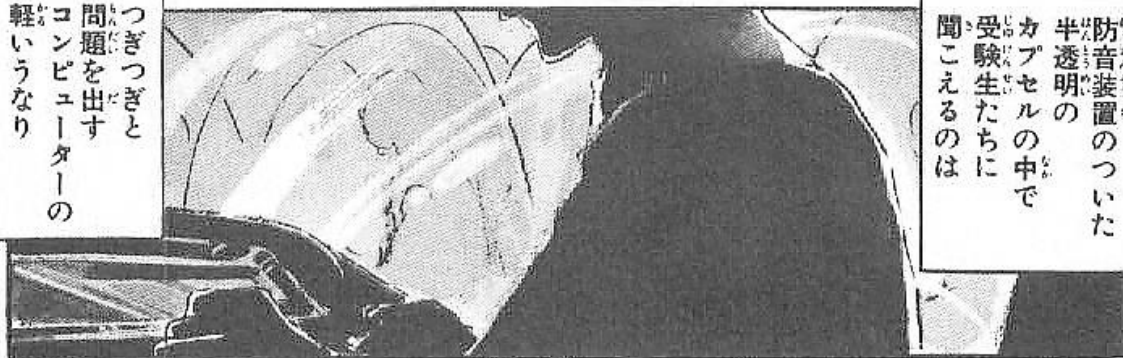


その後、地球はロタ、セグル、サバの3大国と小さなほかの種からなる星間連盟に
テラ名で加入、多くの星ぼしに進出した。
精神形成面で、多く類似の見られるサバ系星人に、ライバル意識をもやし、
小ぜりあいをくりかえしつつも、
400年後にはロタ、セグル、サバにつづく強国となる。
人口はテラ、サバ、セグル、ロタの順で多い。
異星人同士の結婚も、ロタ系をのぞいては、ほぼ可能。
(ロタ系は特殊な宗教下にあるため交易じたいがむずかしい)

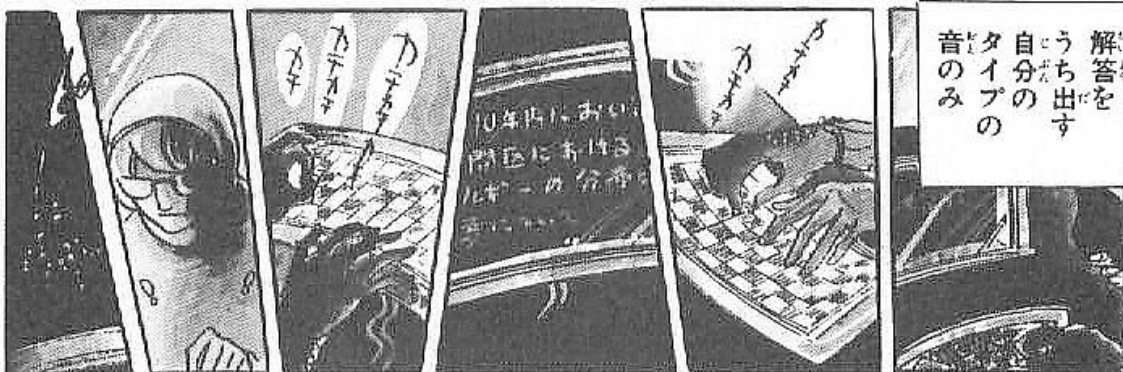


A22宇宙船内部
受験会場

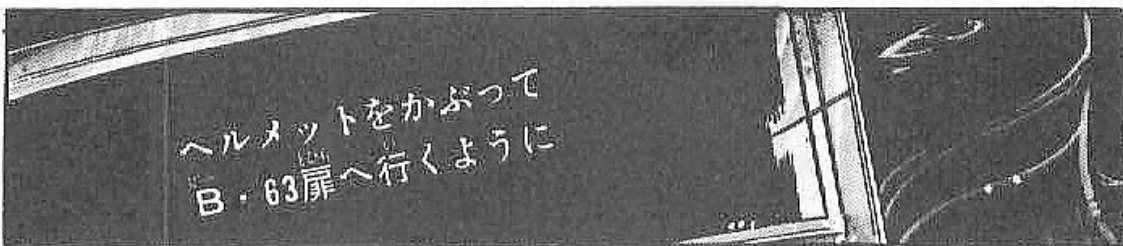
つぎつぎと
問題を出す
コンピューターの
軽いうなり



防音装置のついた
半透明のカプセルの中で
受験生たちに
聞こえるのは



解答を
うち出す
自分の
タイプの
音のみ



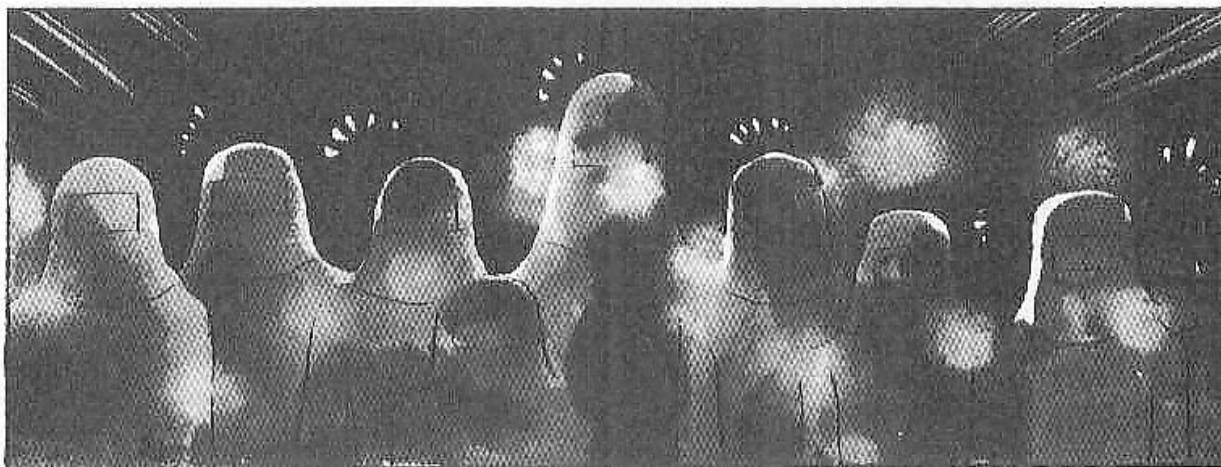
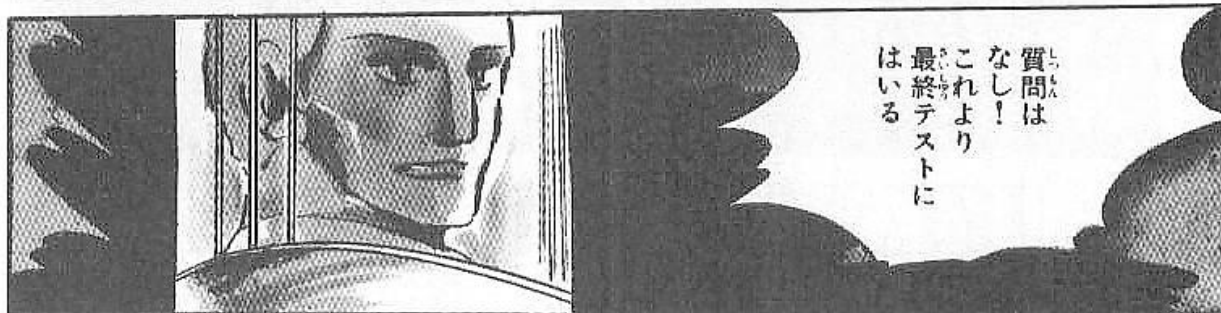
ヘルメットをかぶって
B・63扉へ行くように

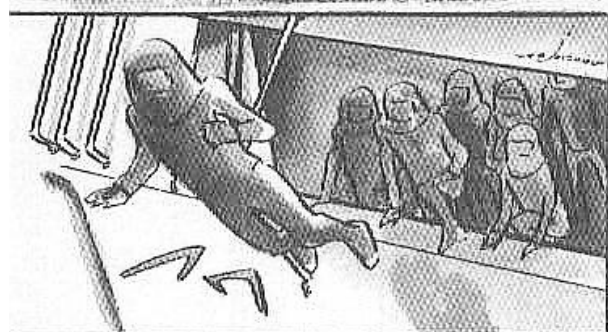
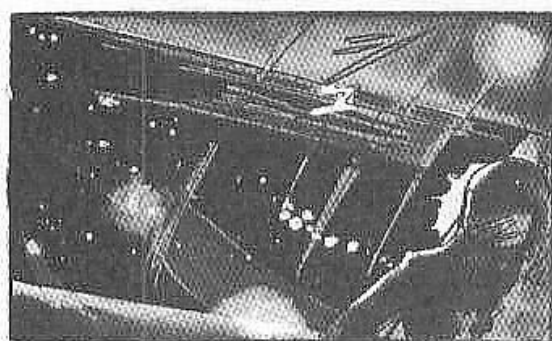


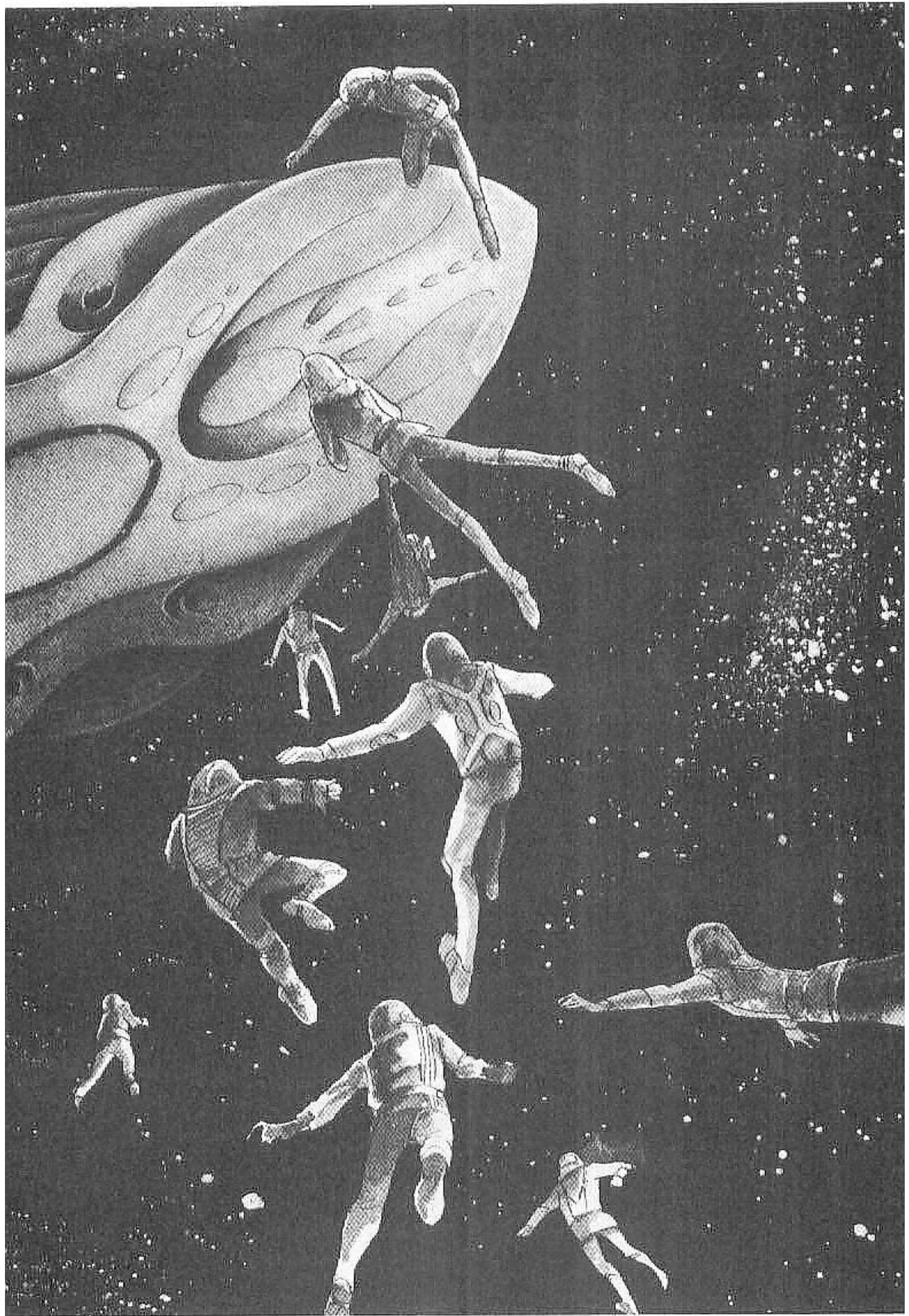
B63

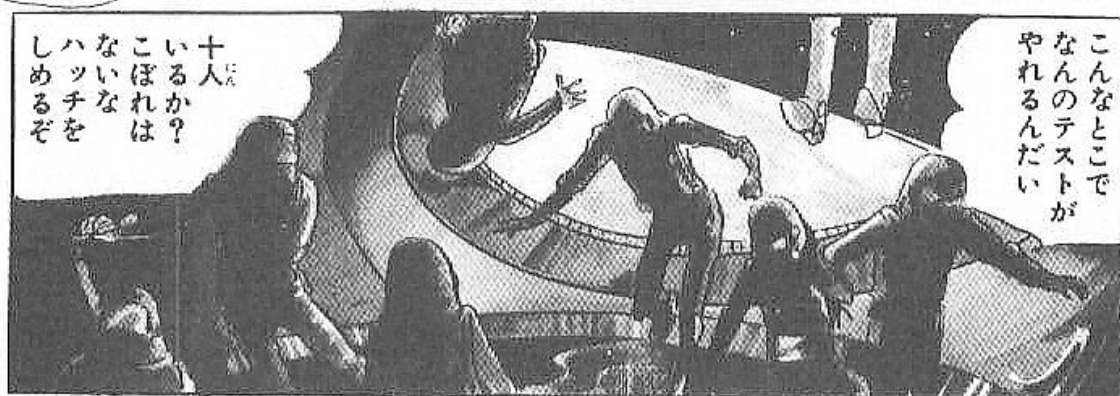
六十二...六十三...
あここだな

B61





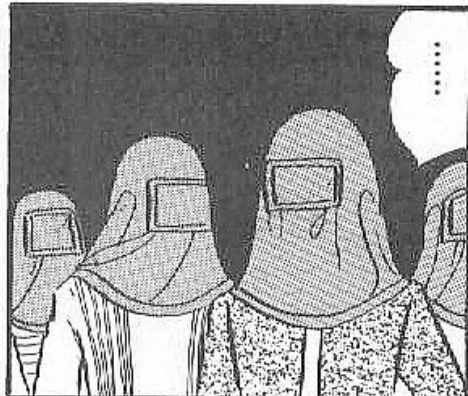








第一次テスト
合格者率0.1%
二次テスト10%
最終テスト70%



三百年まえ
テラ系によって
一つの惑星に
宇宙大学国は
創立された



ふえ
たんだろ

ミスかな？
コンピューター！
バカな！



テストは
二年半に一度
資格年齢に
制限なし

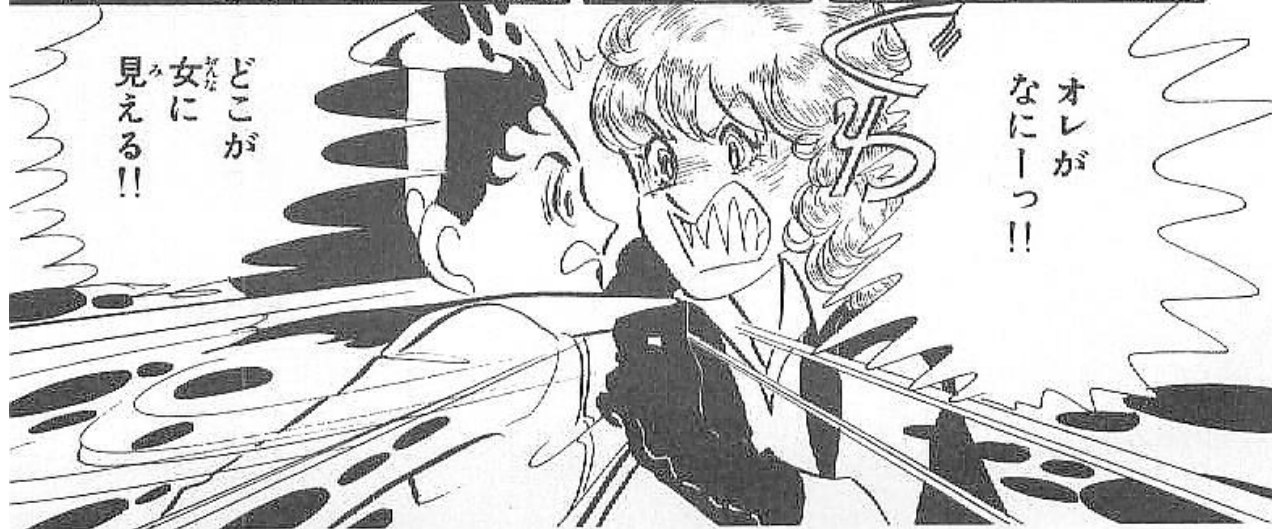
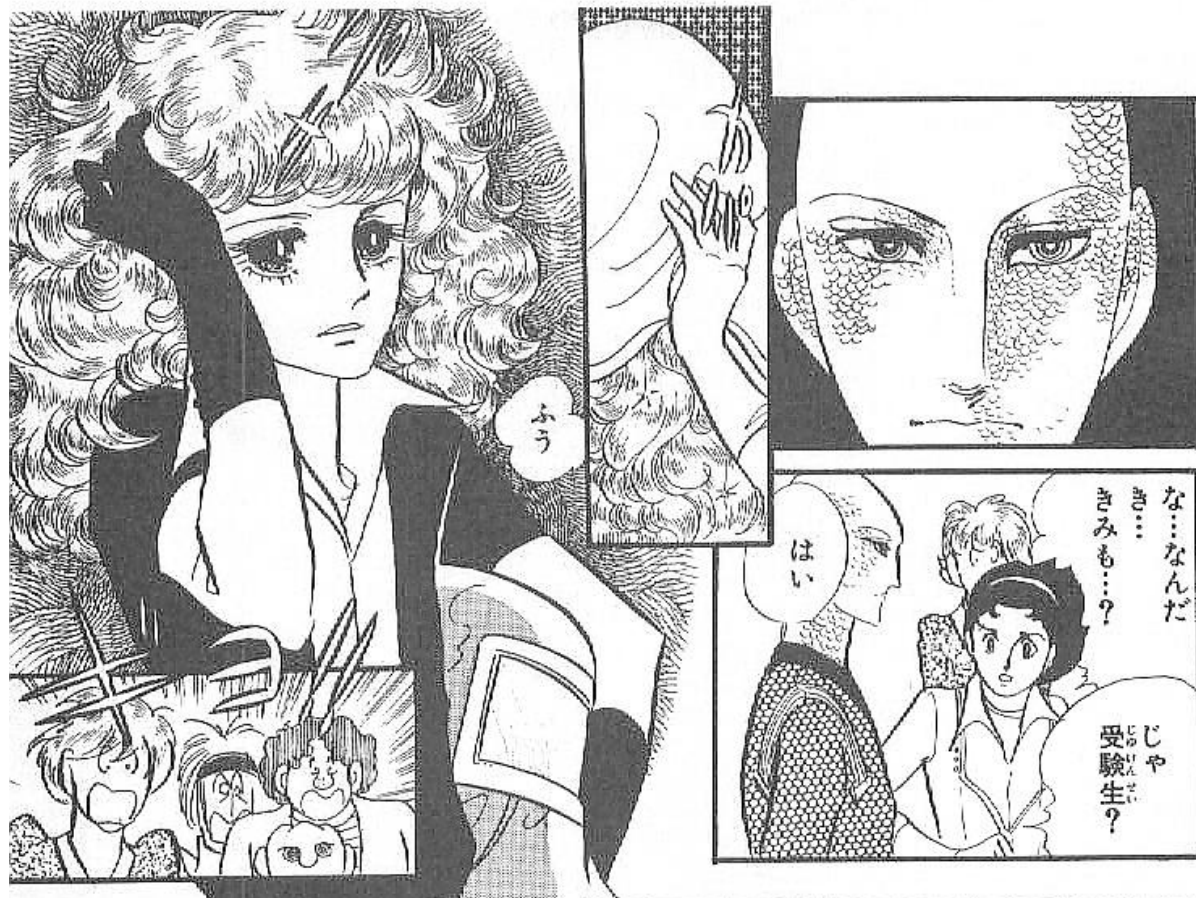


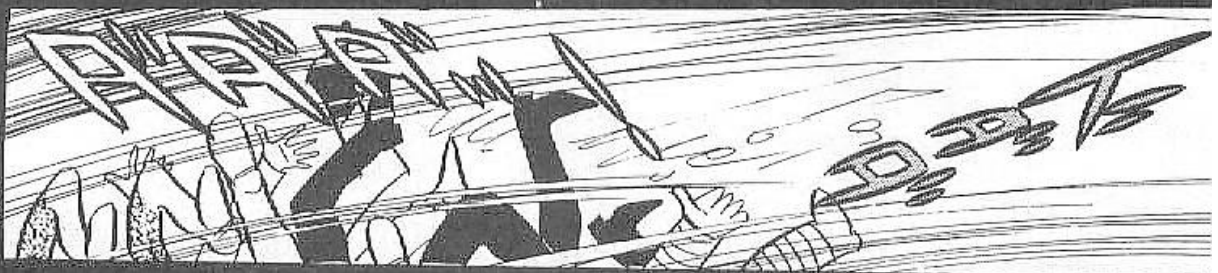
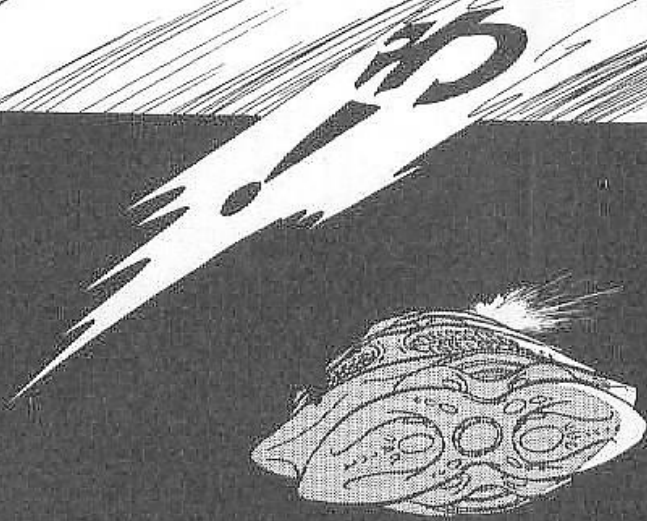
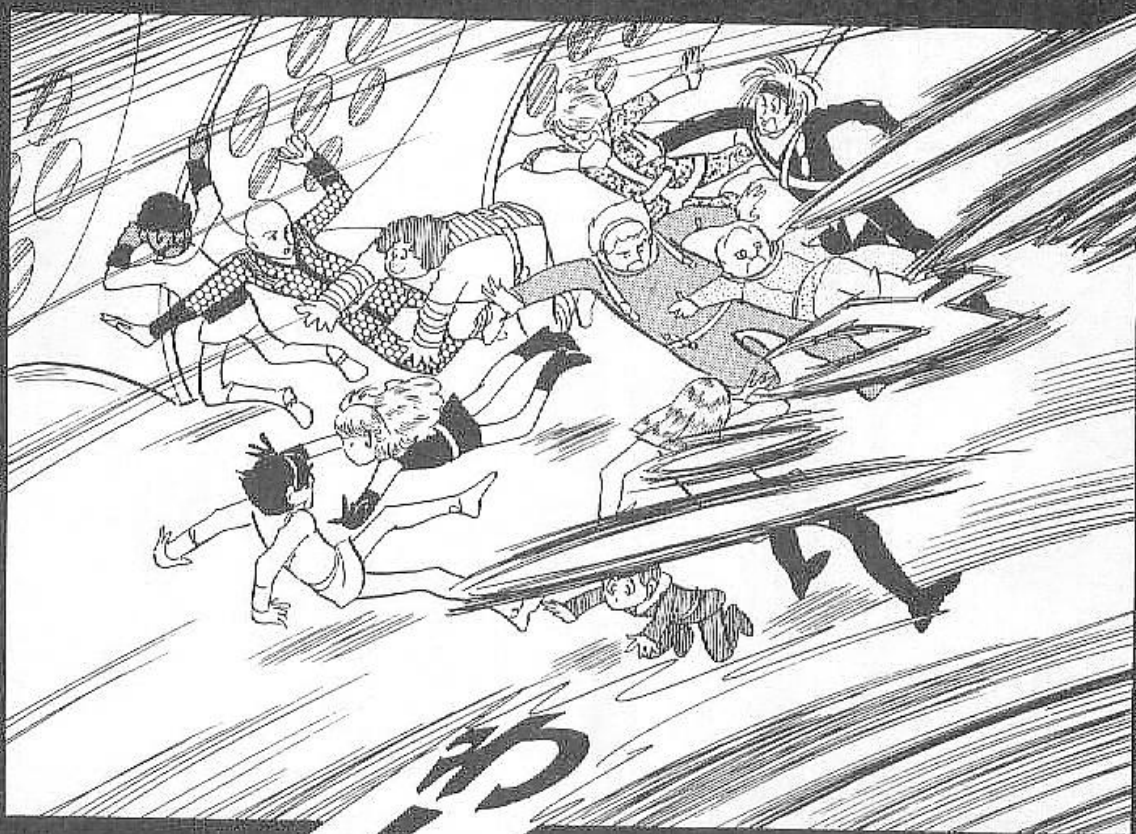
現在では
セグル系や
サバ系
ほかの辺境の
国々からも
生徒が
集まっていた

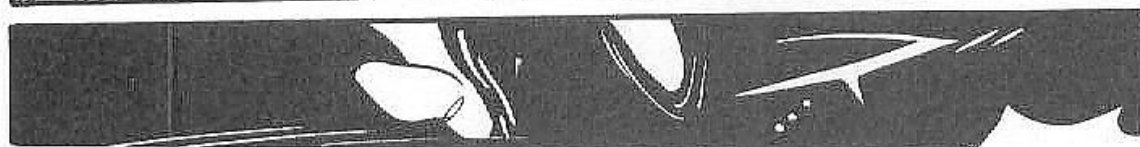


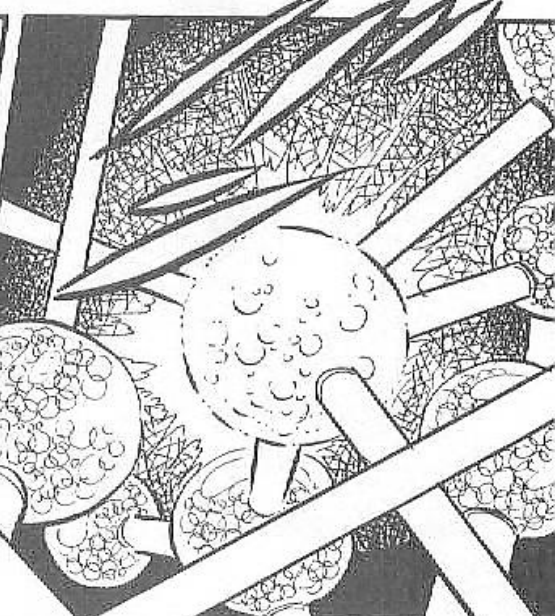
だから
最初から
人数を
かぞえては
いなかった
か？

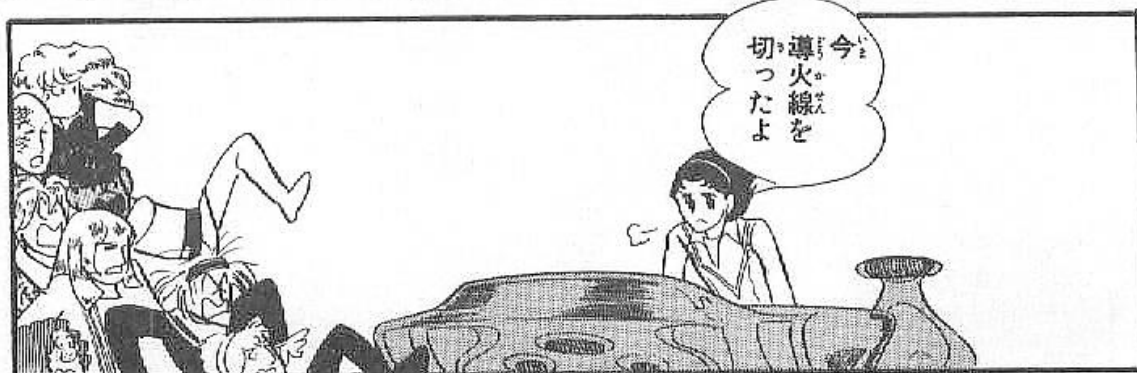
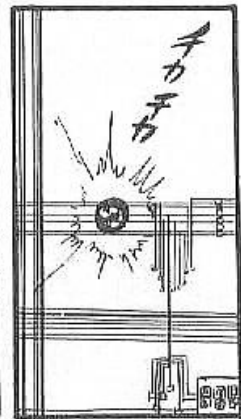
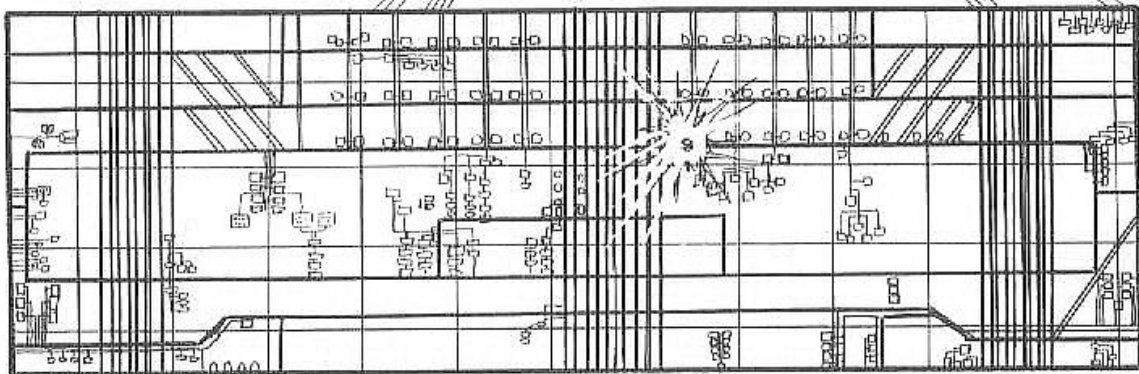
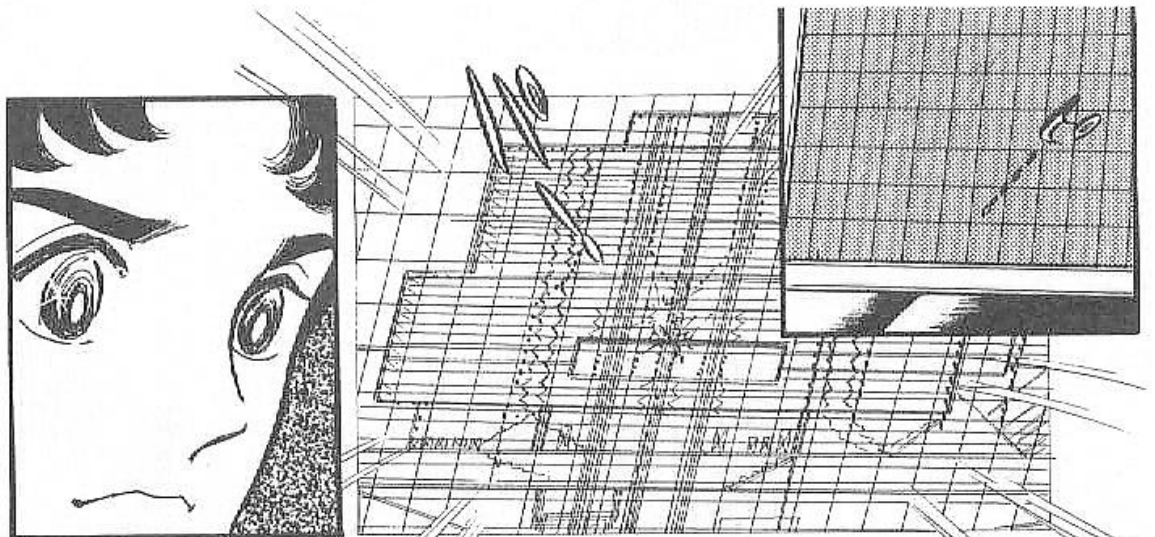




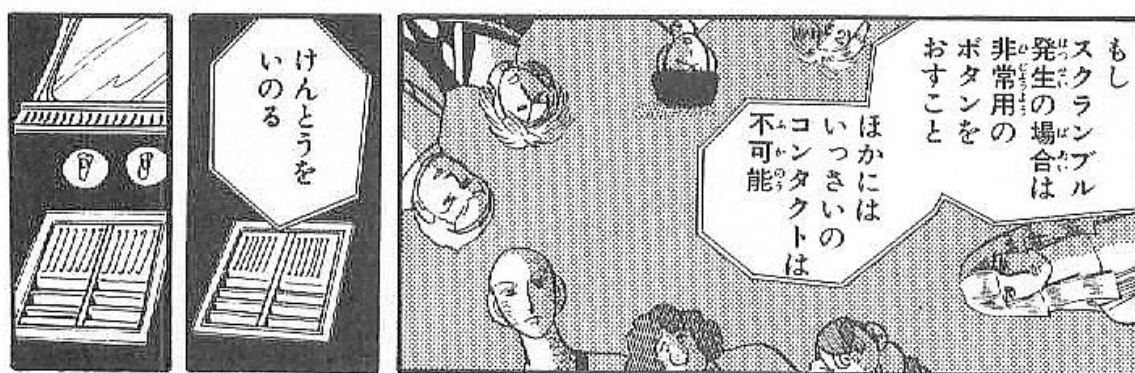








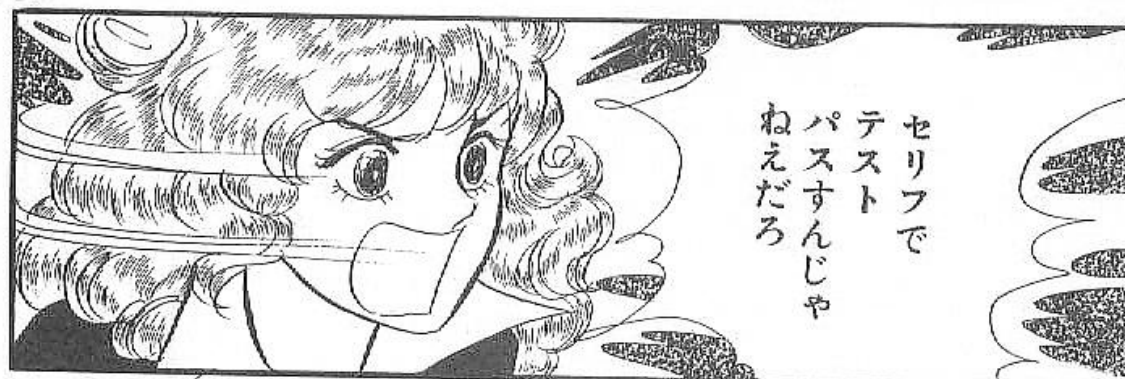


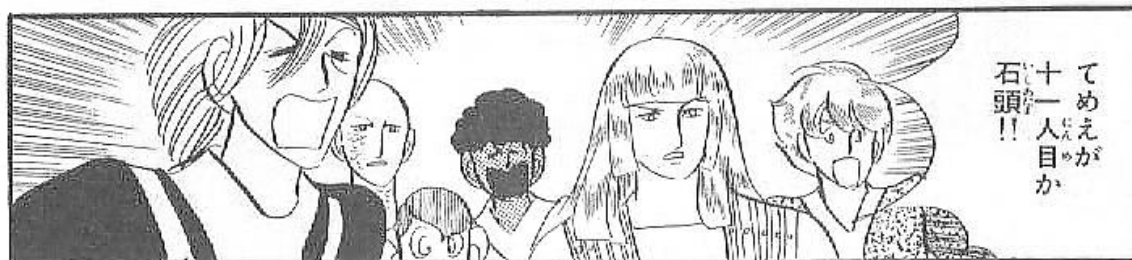






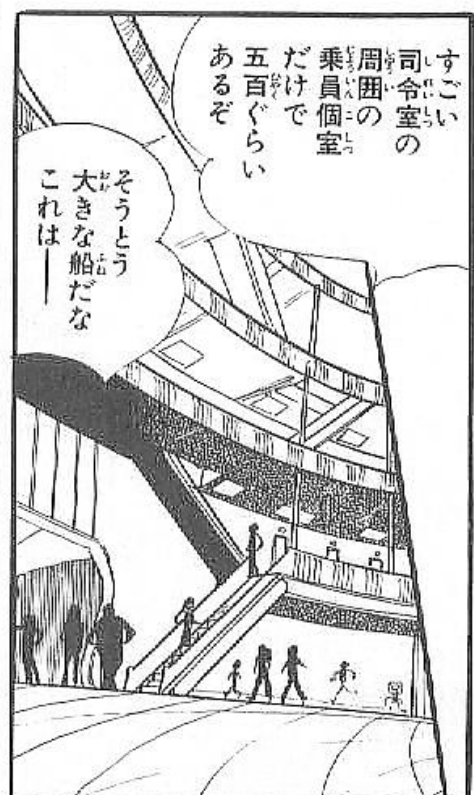
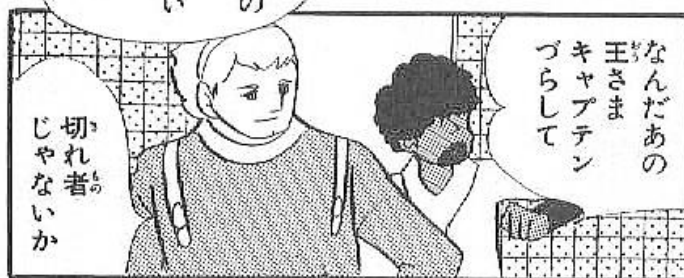
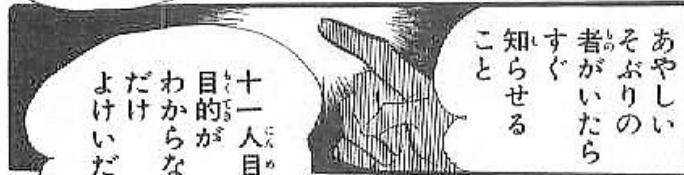




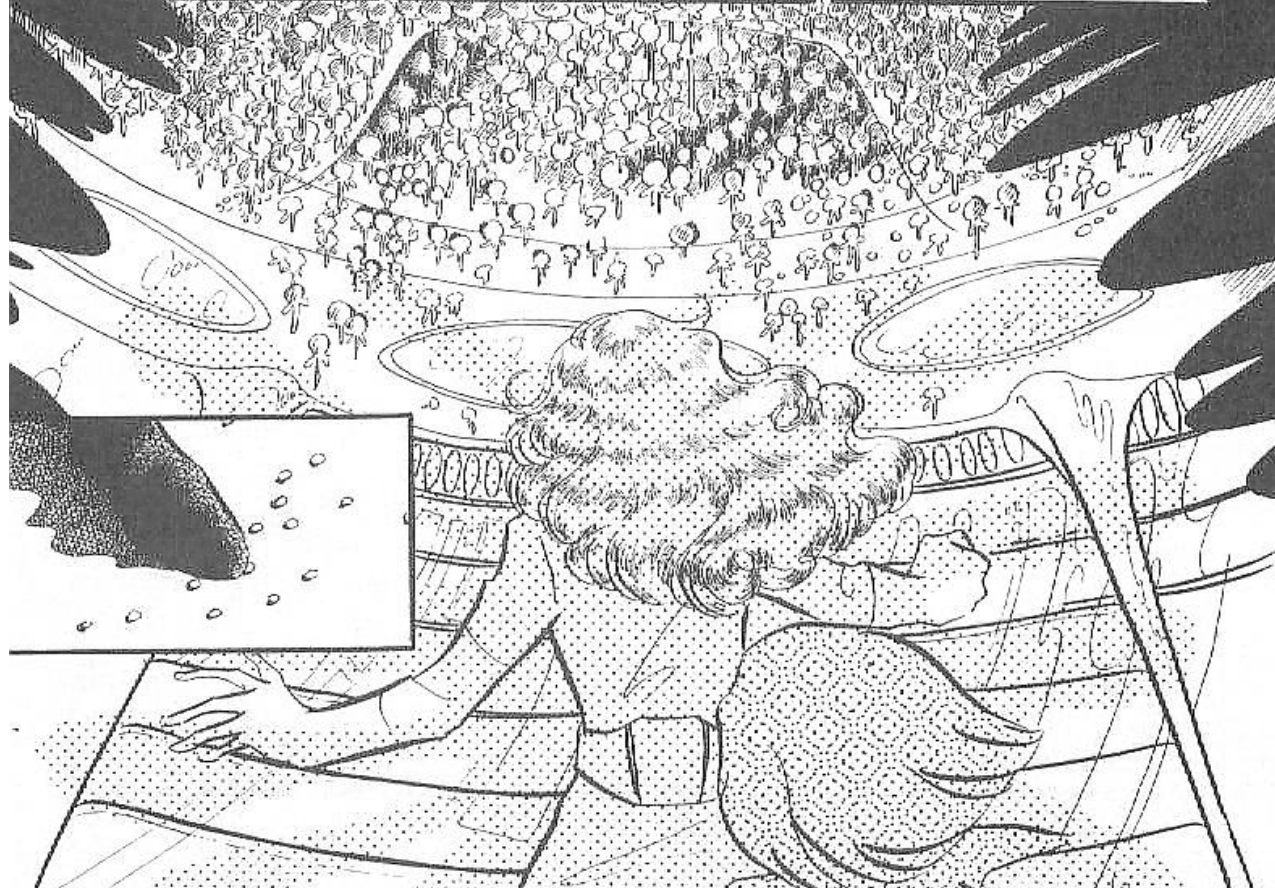
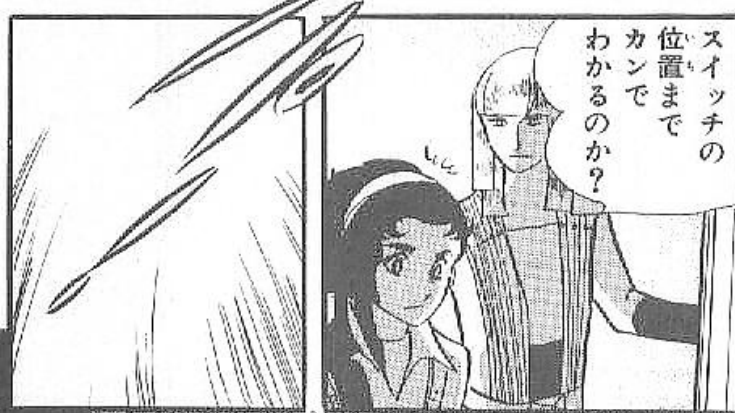


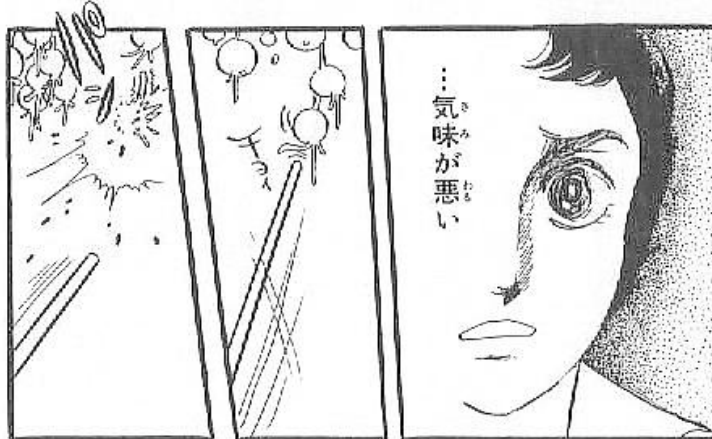
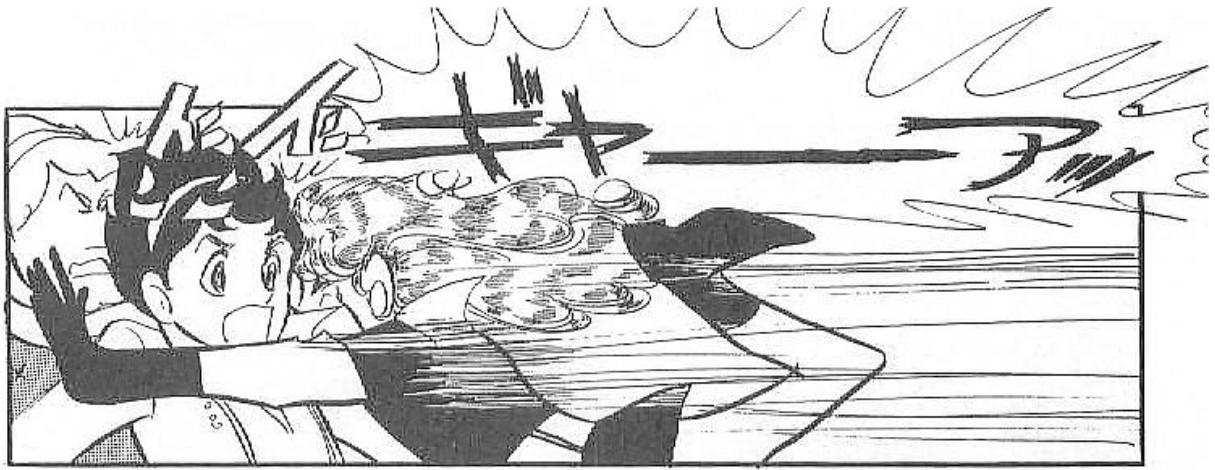


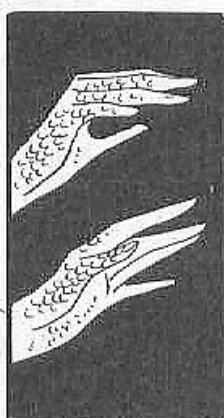
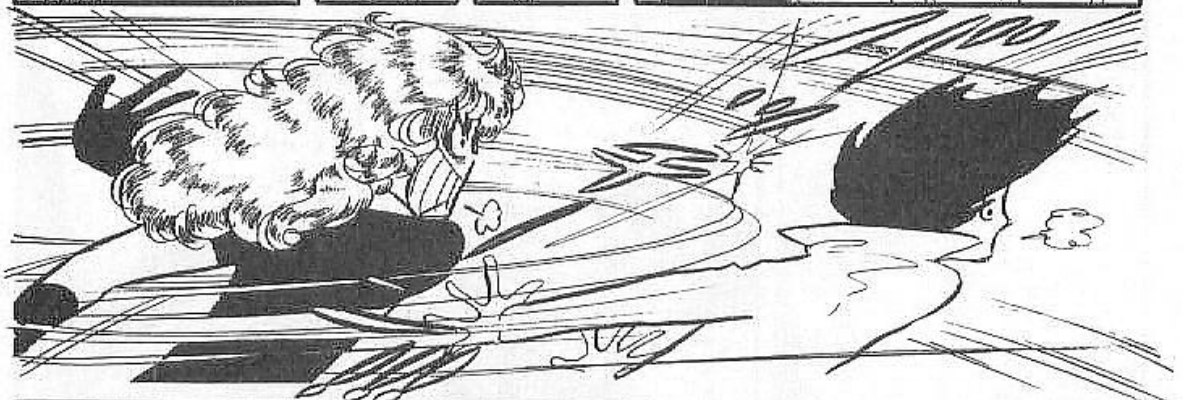




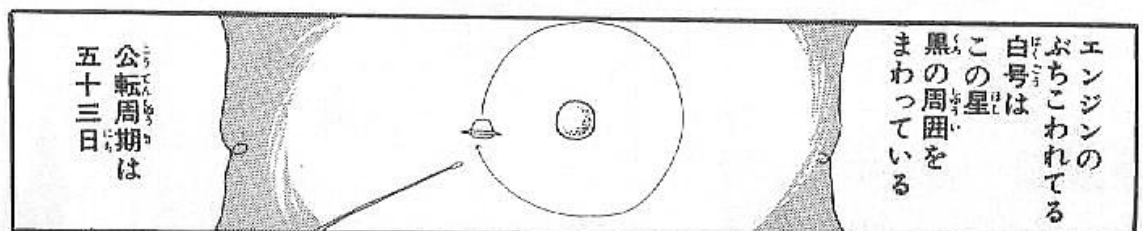
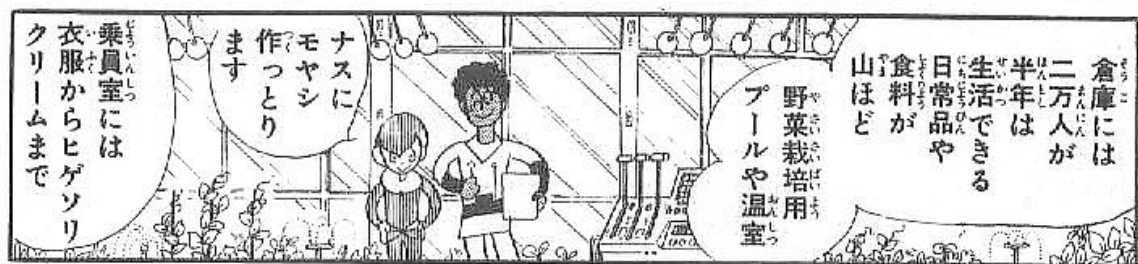
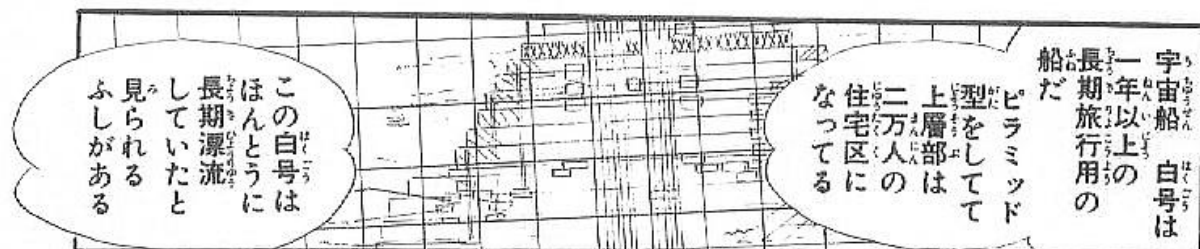












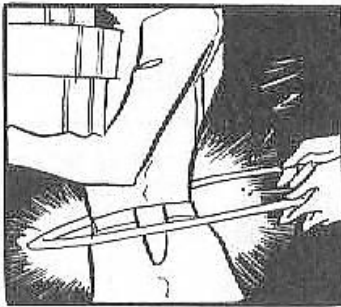
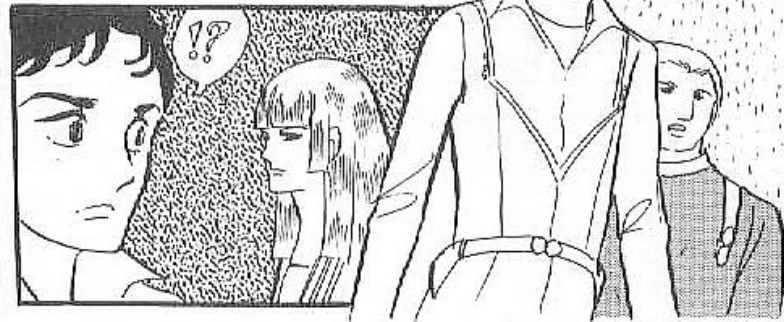
五十三日

テストの日数が
五十三日っていうのは
それか！

白号が
星を無事
一周すりや
いいんだ！

すでに
四日目
あと
四十九日！

さあ
そううまく
行くかな



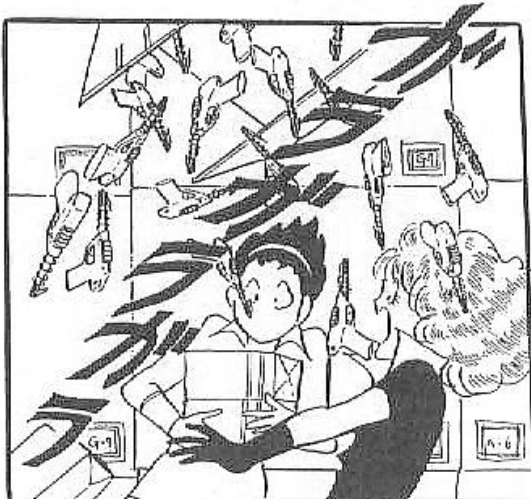
ふーん
ウエストも
オレのほうが
細いのか

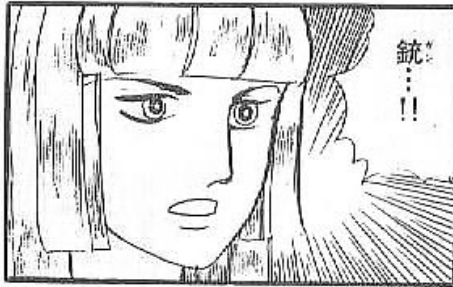
やっぱし
オレん星の
ほうが
骨格が
小せえ
のかな

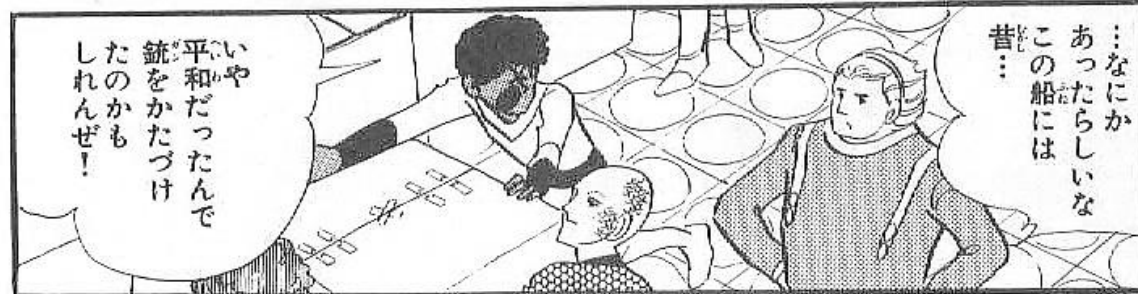
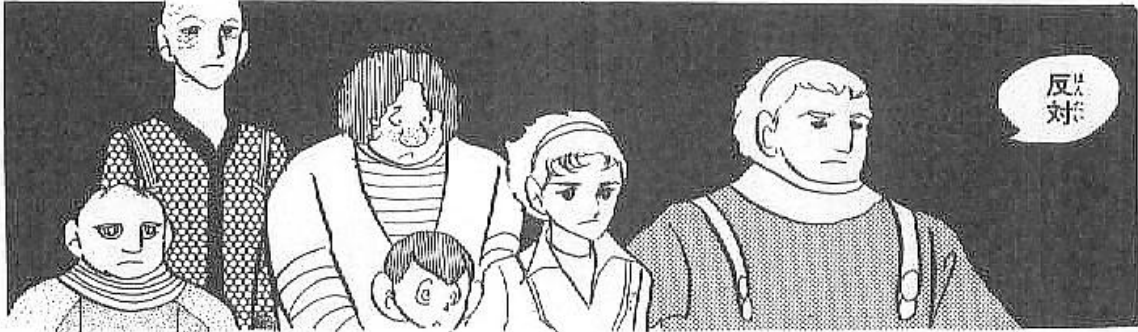
そうだよ
きみは
テラでは
ヘンペイ
胸の女性の
体型に
近い!!

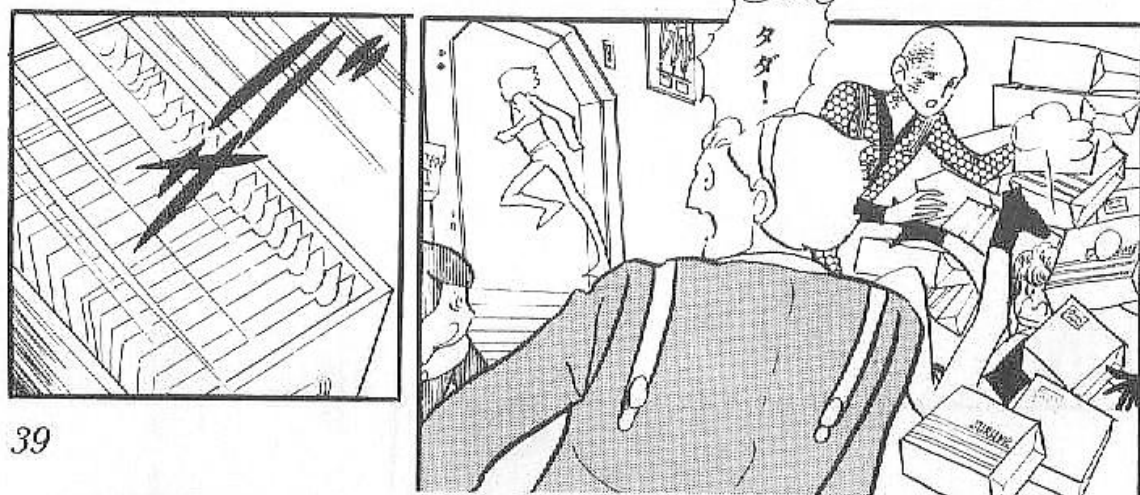


なに考え
てんだ

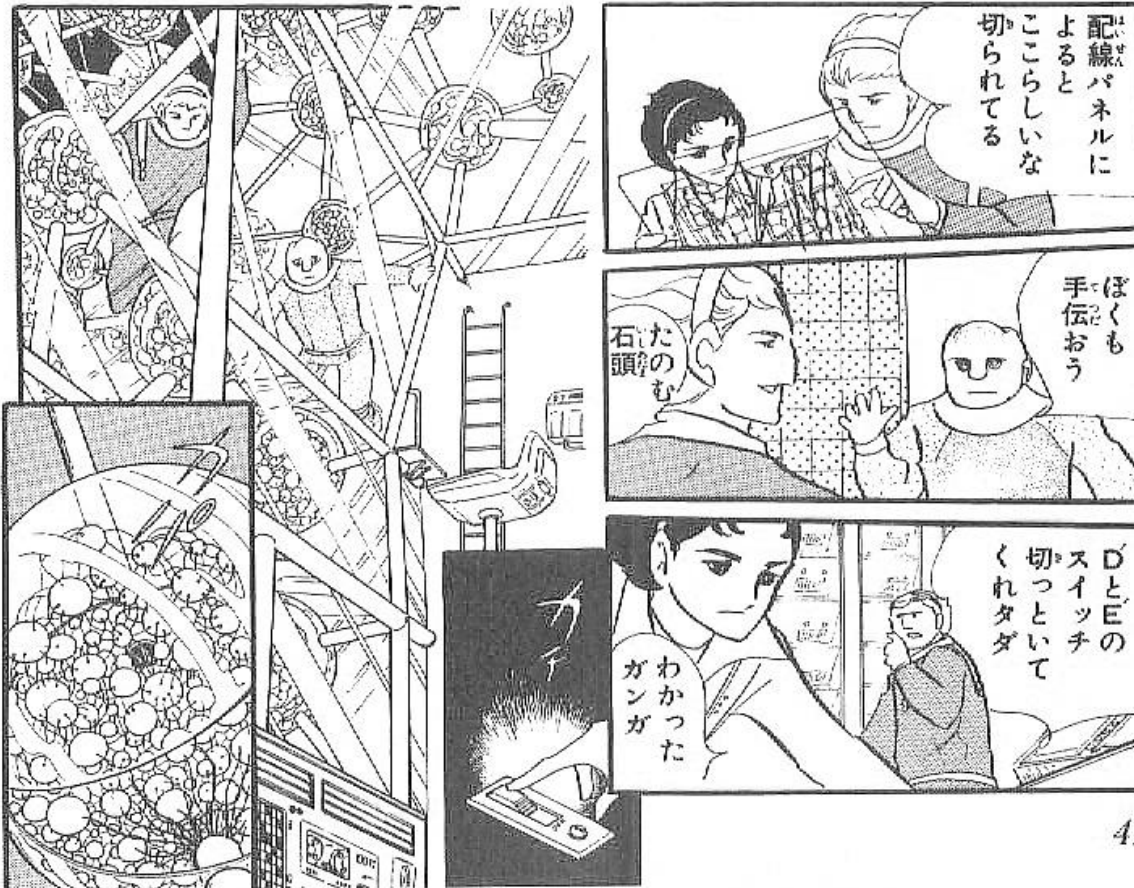


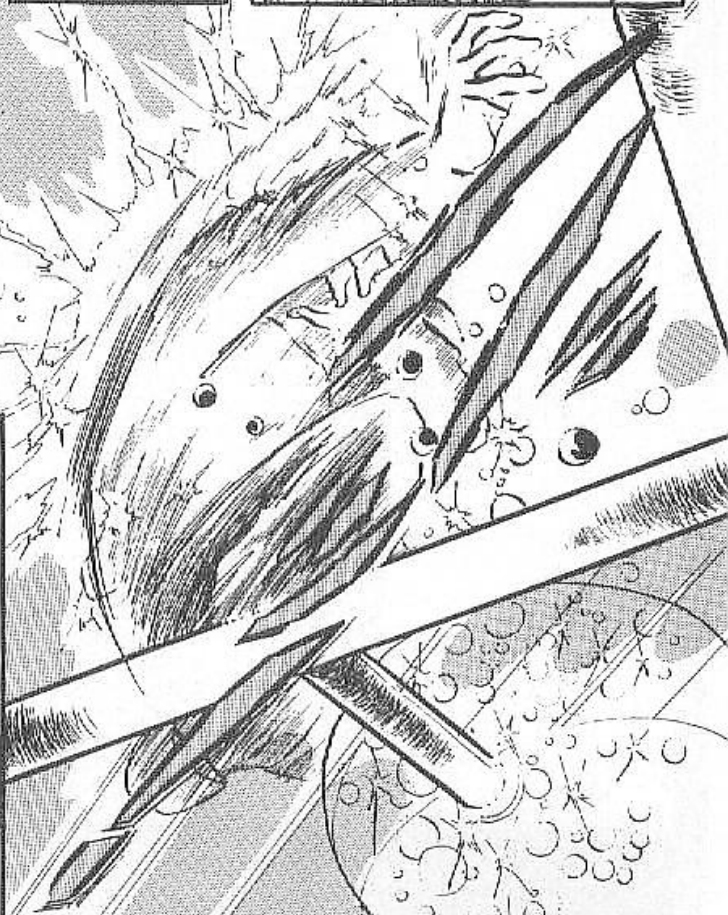
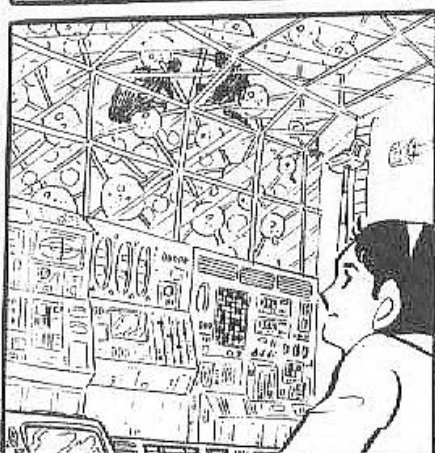


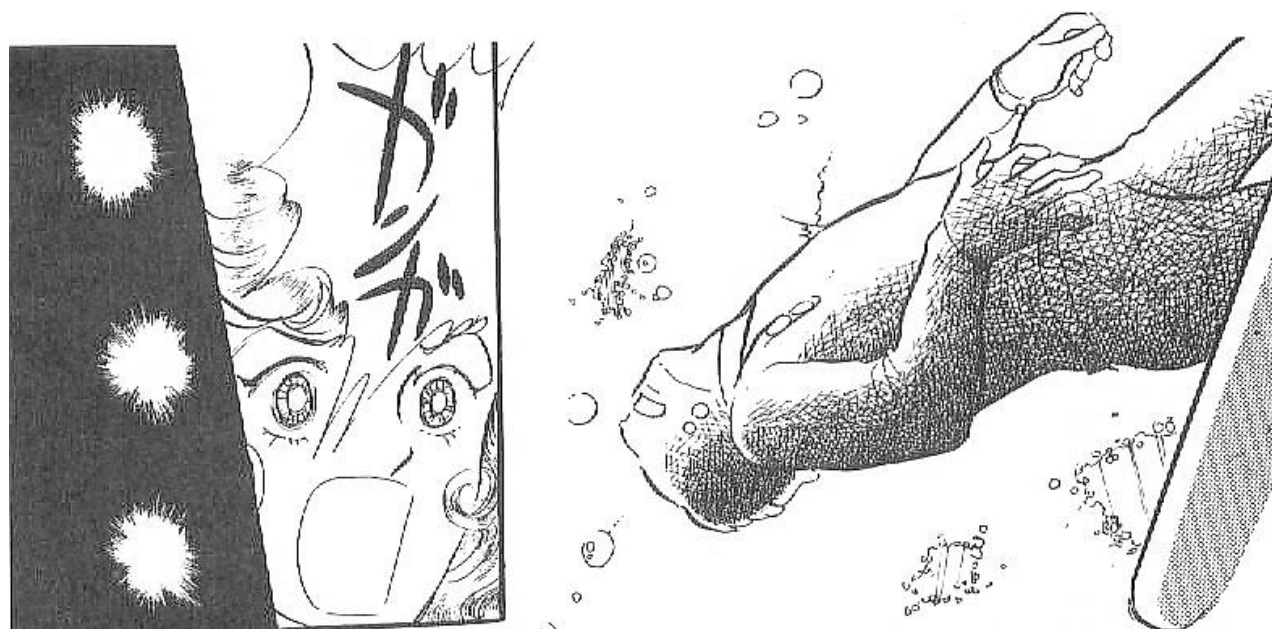






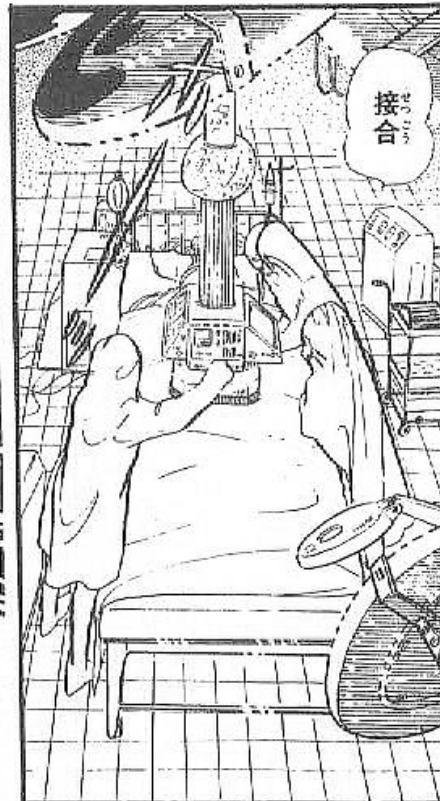
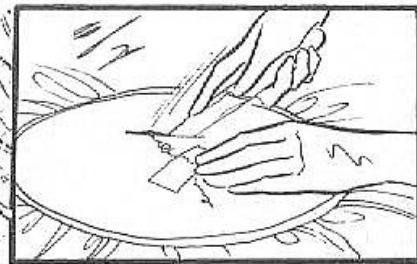
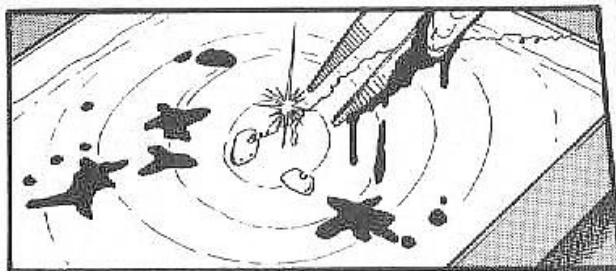
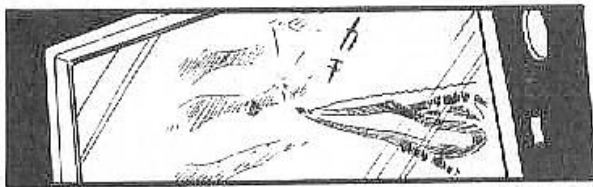
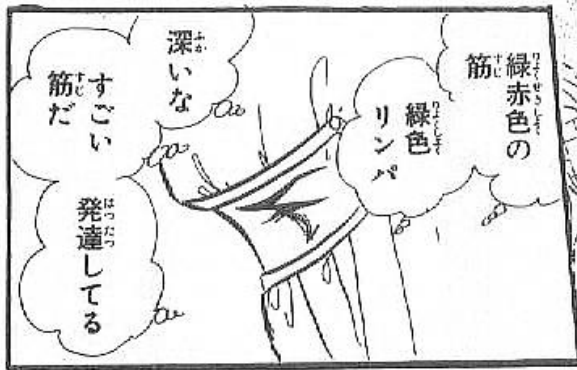














二十四階…

住宅区の
最上階か

24

23

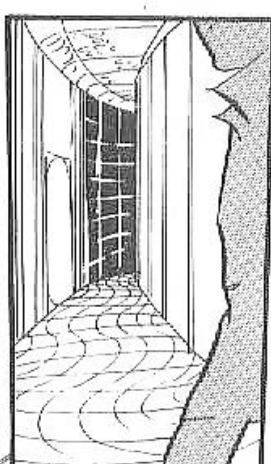
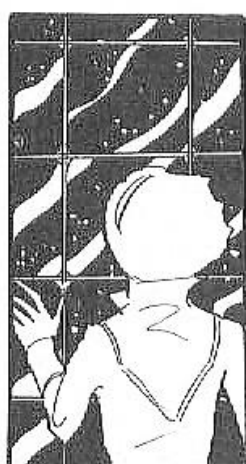
22

21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1



まったく

なにしてい
るんだろ
ぼくは
ここで



テレパス



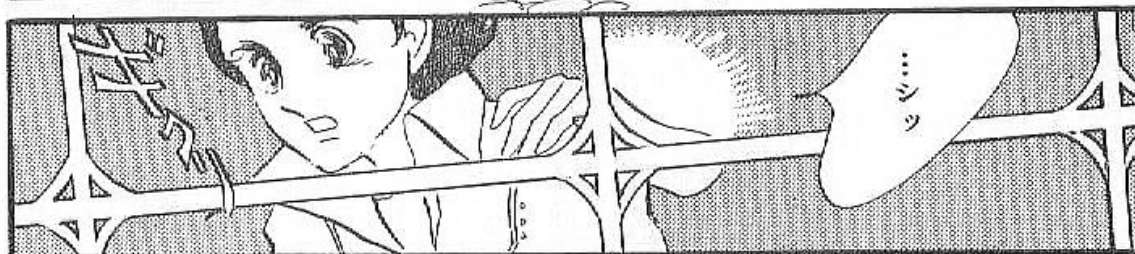
あの時
耳のそばで
スイッチを
入れろと言
う
声があった

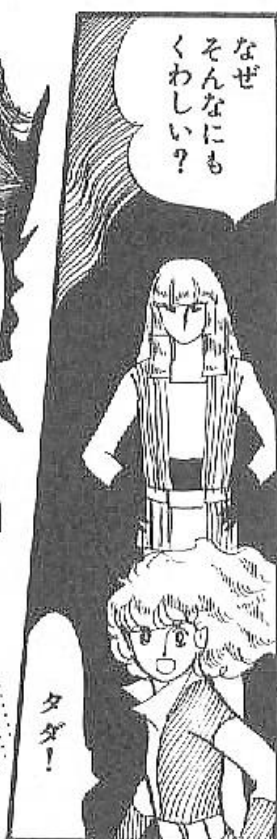
助かった
よかった
丈夫な
男だな

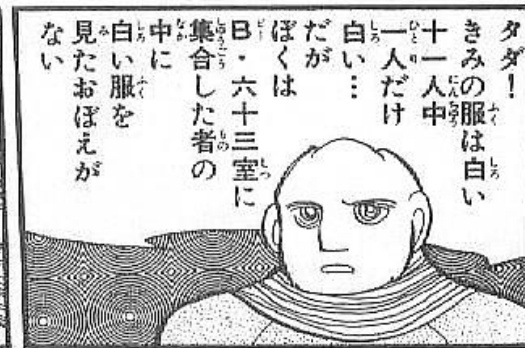
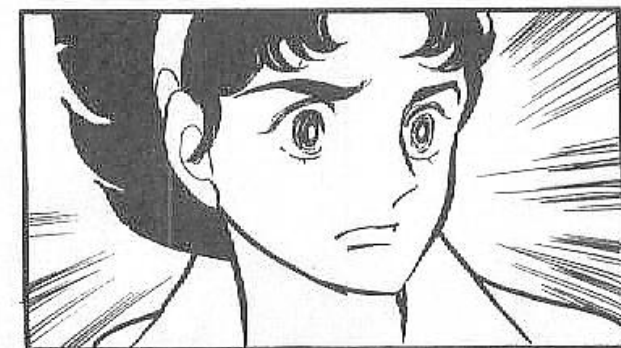
カンが狂う
失策はやらす
……
ぼくばかりだ
ぼくのせいで
みんなが
不合格に
なったら…

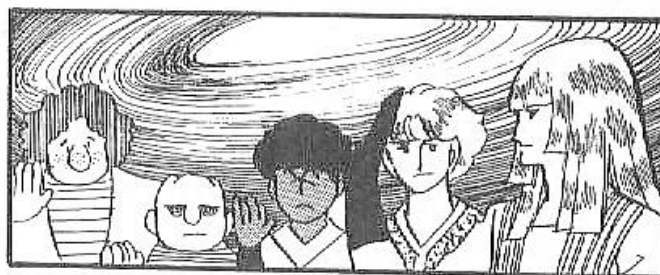
……確かめもせず
そして
入れちまった

それに
長老が
せっかく大学へ…
……長老が











いいや



ガンガ
ありがとう

きみは
ぼくを
うたぐつて
いないのか？



心配には
およばんよ
オレは
がんじょう
なのだけが
とりえでね

すつかり
回復したら
また
コンピューター
修理するよ

ほんとう
がんじょうで
よかったよ
すんでのとこで
タダは
ろうごく入りを
まぬがれた



十一人目が
そうバカを
さらすとは思
えない
んでね

そうだよ
な
こいつ
ドジ
ばっかり
やらかし
てよ



オレの
からだ
全身緑色
だったろう



それに
手術して
くれたのは
おまえ
だって
いうじゃ
ないか
タダ

ひやひや
だったよ

血液型が
わからな
くて

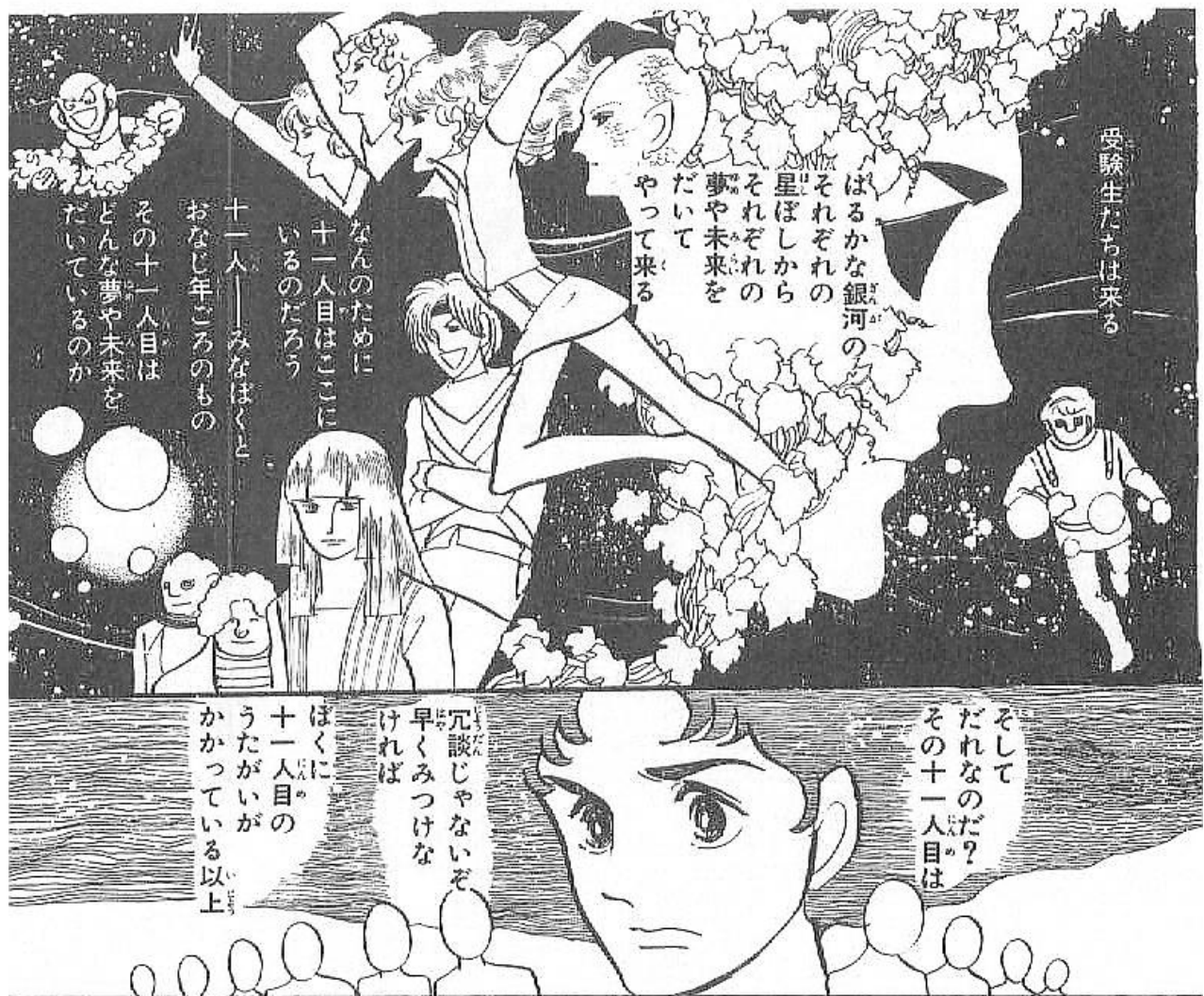


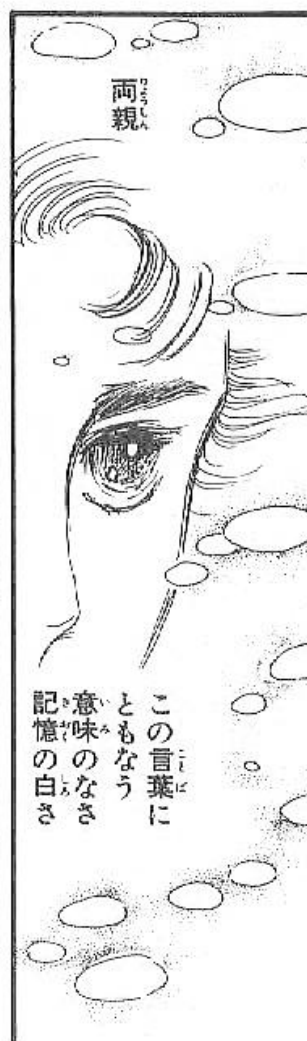
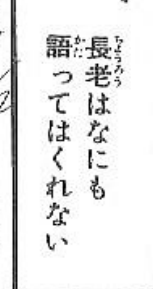
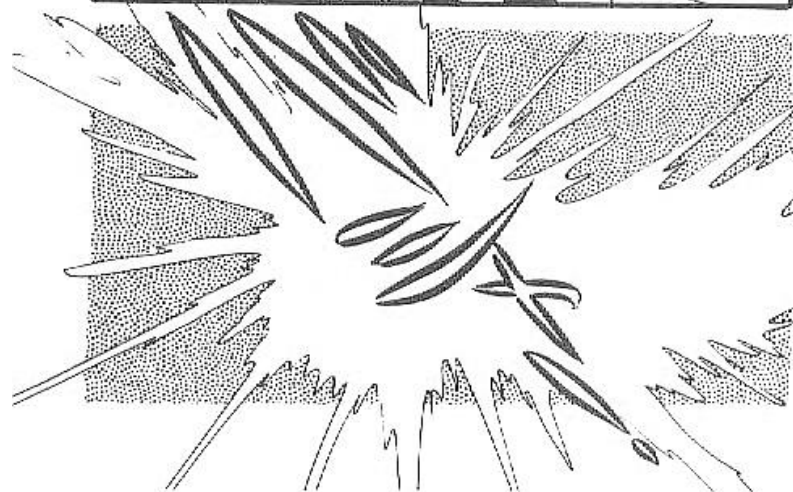
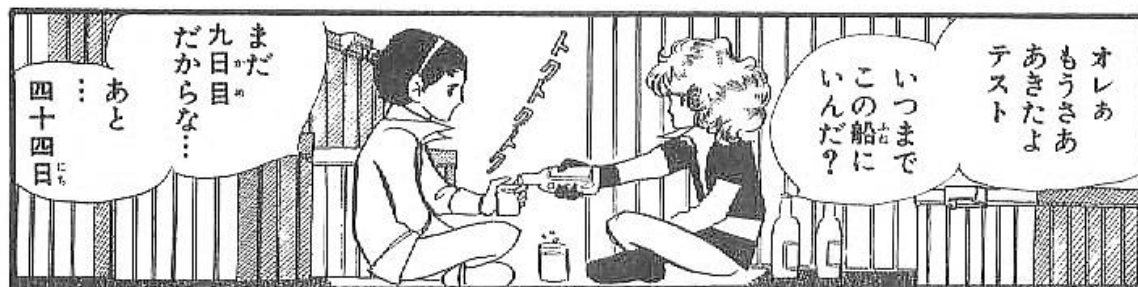
オレの星は
サバの中心からは
えらくはなれた
いなかにある

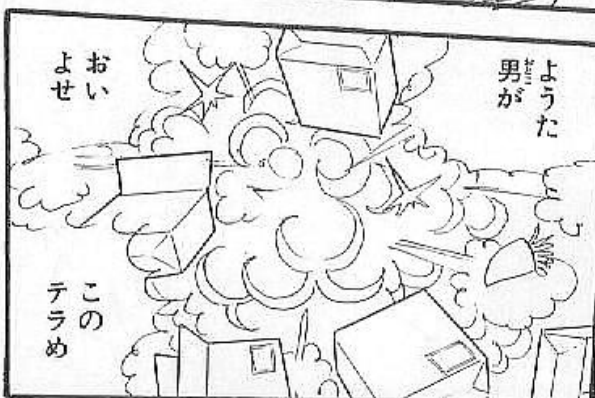
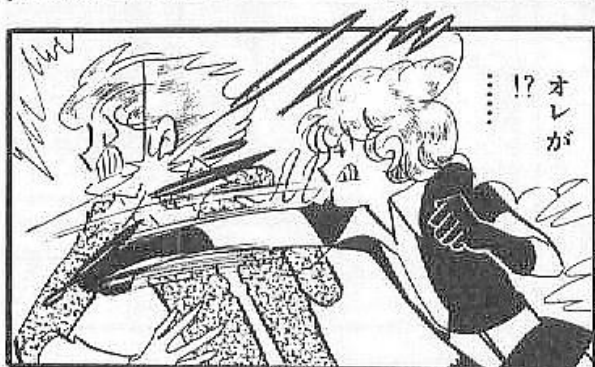
きわめて
短命な
種族でな

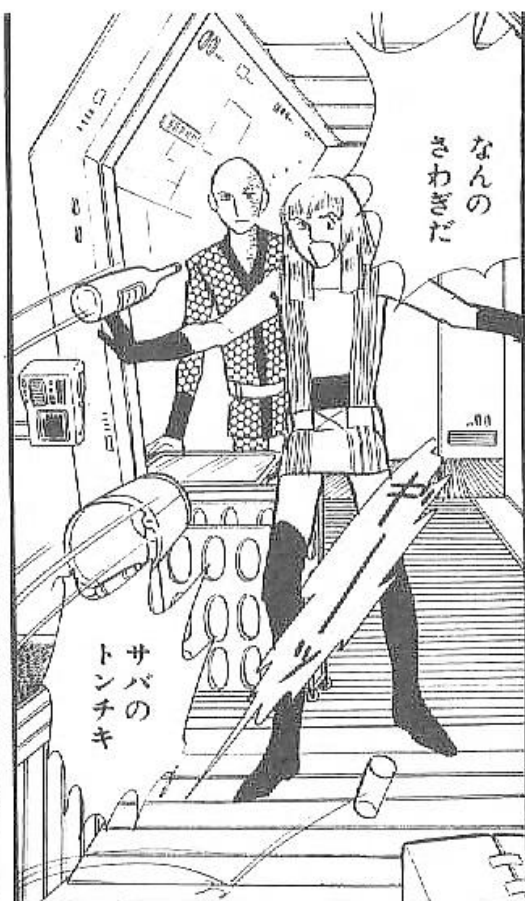
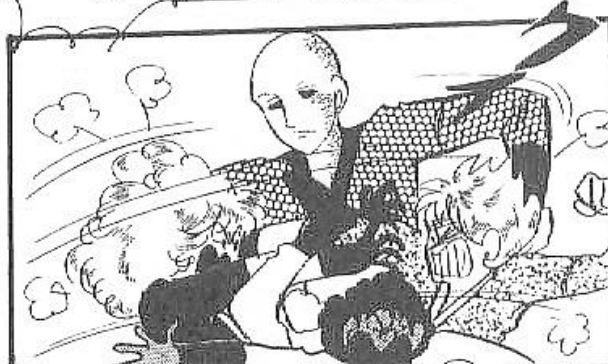
星全体を
おおっている
風土病から
のがれることが
できず
みな
三十歳前後で
死んでいく

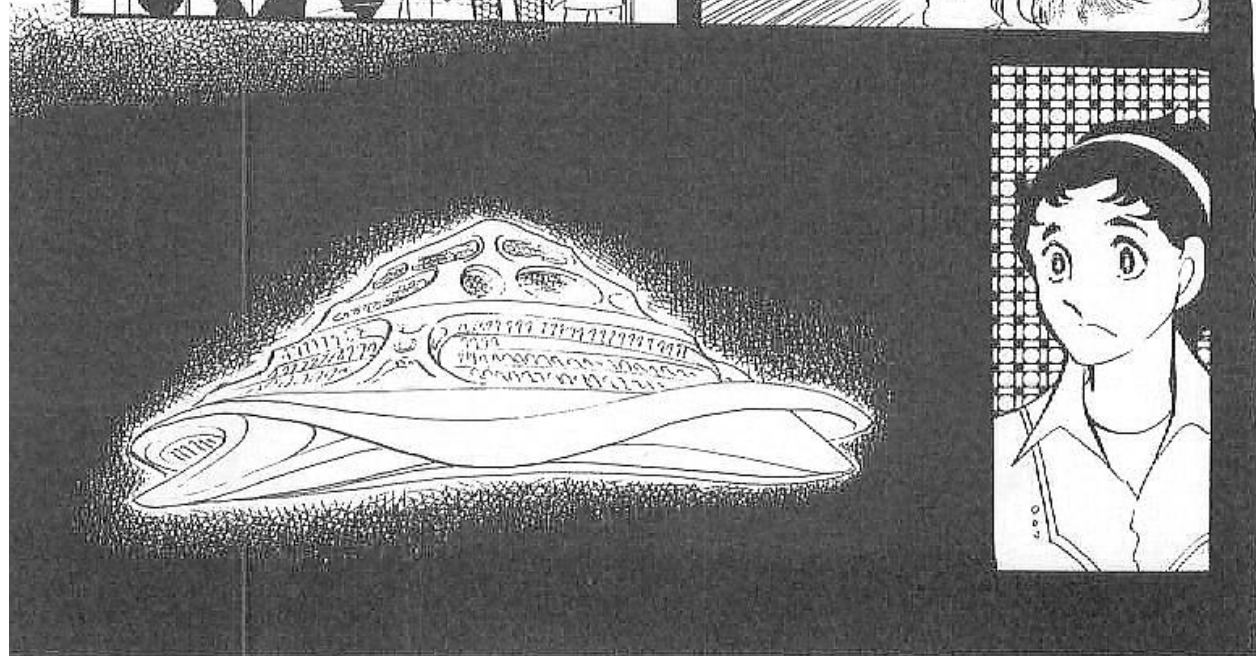


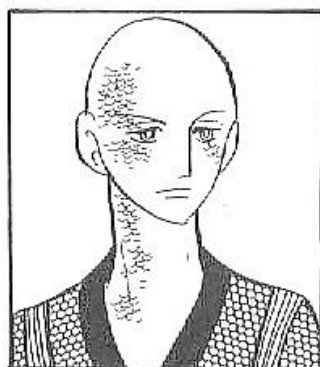




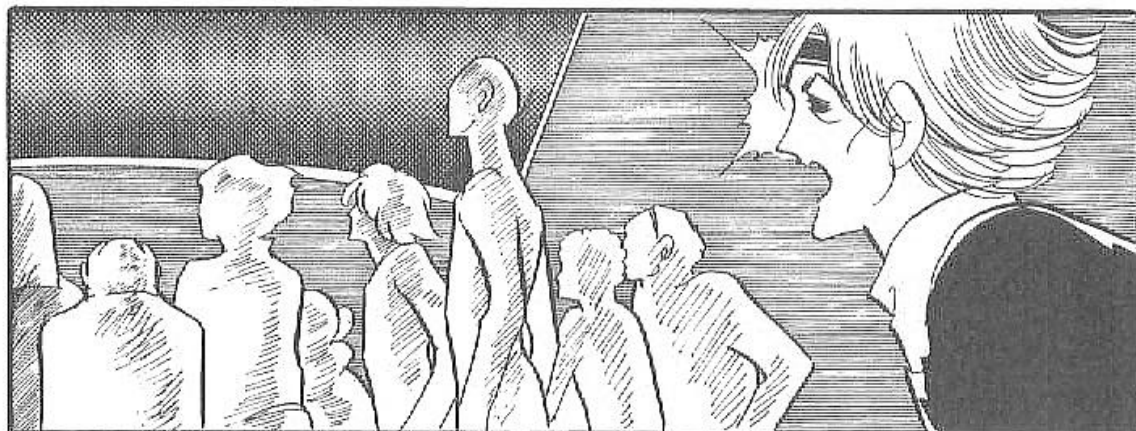


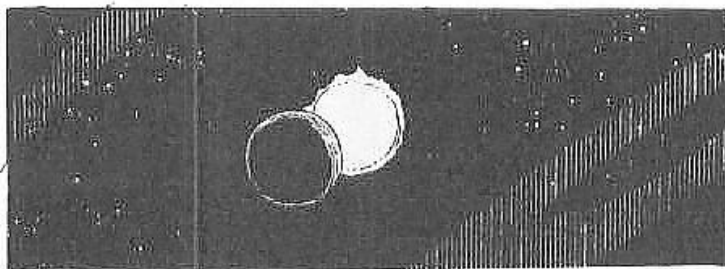












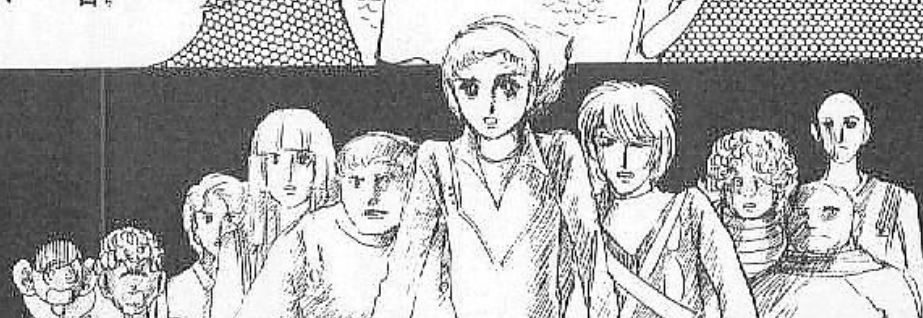
質量 0.03
直径 4000キロ
距離 40万キロ
惑星・黒
だよ

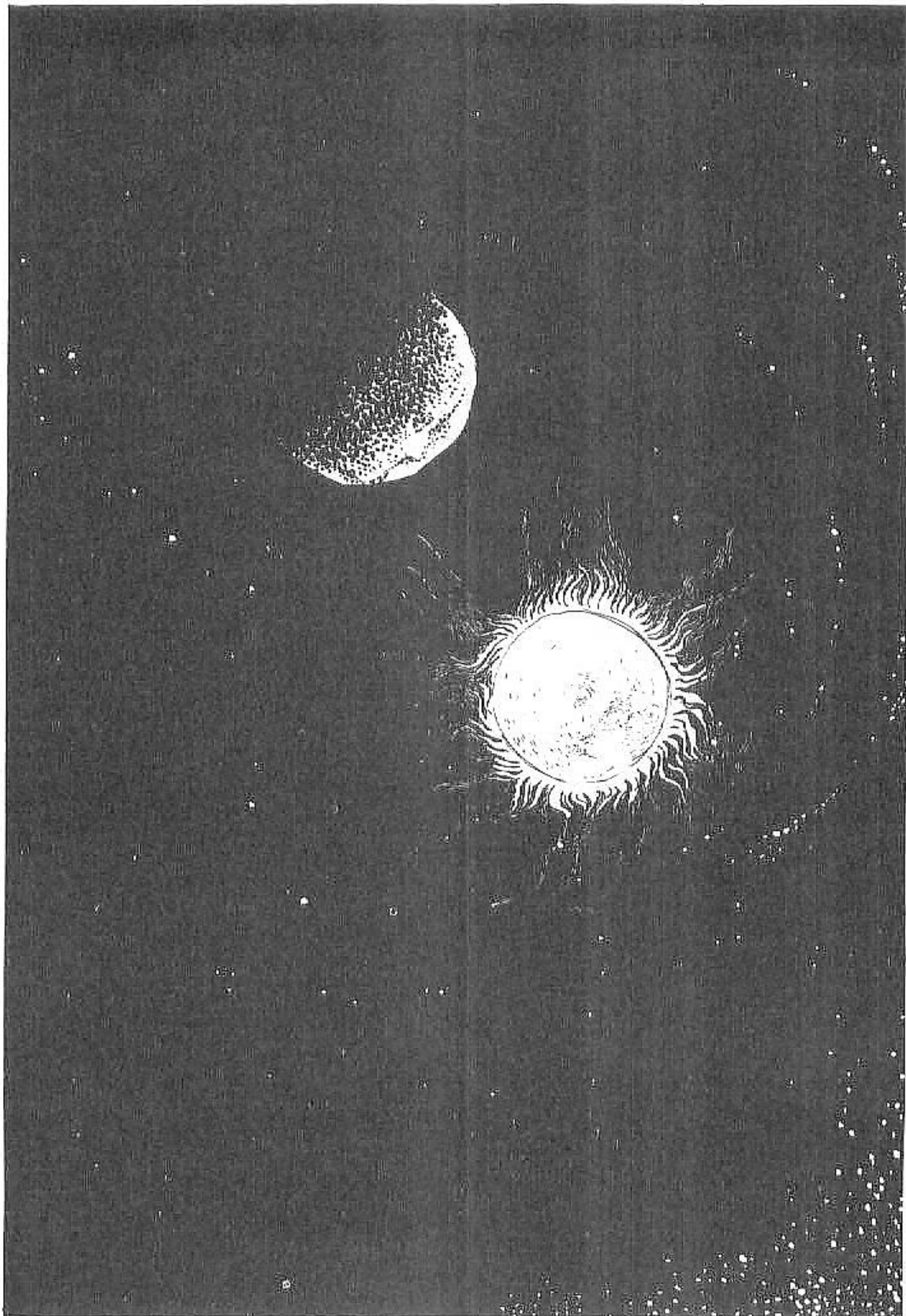
あれは
...?



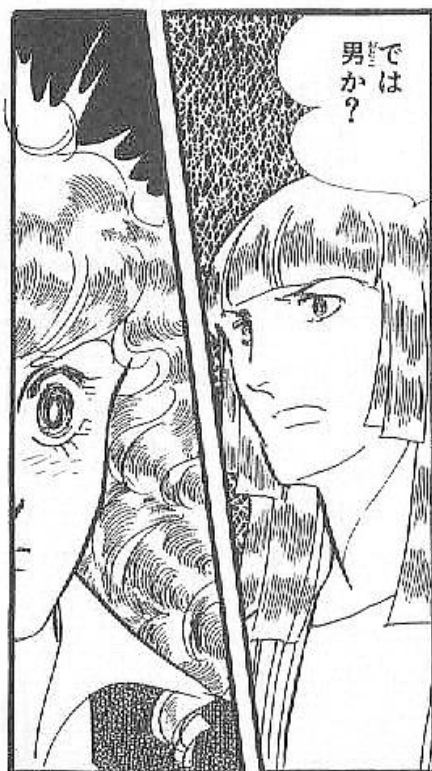
わたしの国の
占星術では
重なる星は
最悪の
事態が
おこる
まえぶれを
示している

わたし
たちは
五十三日
以前に
ほうかい
するだろう













待てよ
…!



両性体だ…
そうだろ?

両…



あっけ



このテストに
うかつたら
許可がおり
るんだから!
男になっても
いいって!!



両性?
完全雌雄同体の
ことか!?

ってことは
男性であり
女性である…

んじや
きみは



だから
わたしが
最初から
言ってる
彼女は
メニールだと



まだ男女
どっちでも
いいよ!





姉上たちの
結婚式を
いくつも
見てきたけど

でも兄上の
成人式が一番
すてきだったよ

やっぱり
生まれたからには
男になつて
あれぐらい
チャホヤ
されてみたいや



きみは
末子だと
言つてたな？

そ

もう
二三年たつて

二次成長期に
はいると
体温が四度ほど上がる
そしたらホルモンを
あたえられることに
なつてゐるんだ女性用のね

あくあ
ガキのころは
いいよな
コロコロ
いっしょに
育てられてさ



それから？
女性になつたら？

たいていすぐに
結婚しちゃうね

もしホルモンを
あたえられ
なかつたら？

てきとうに
変化するよ
男か女かに



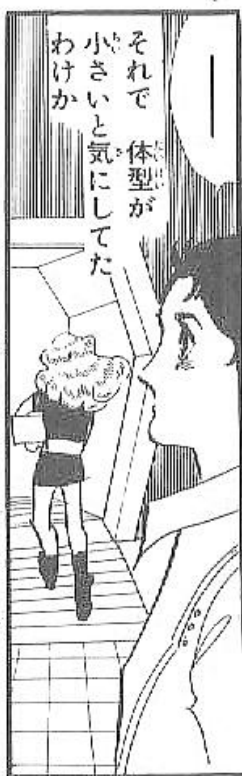
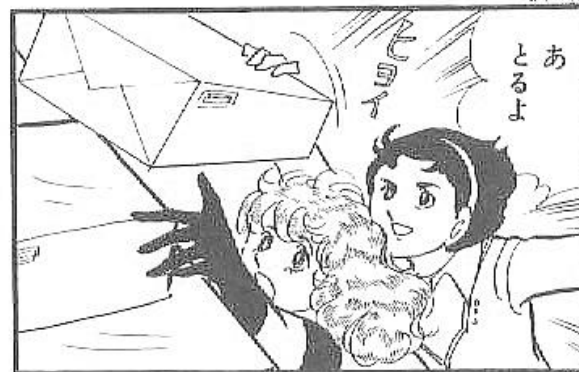
でも現在の
一対五の
人口比つてのは
一番いいんだつてさ
平和を保つに

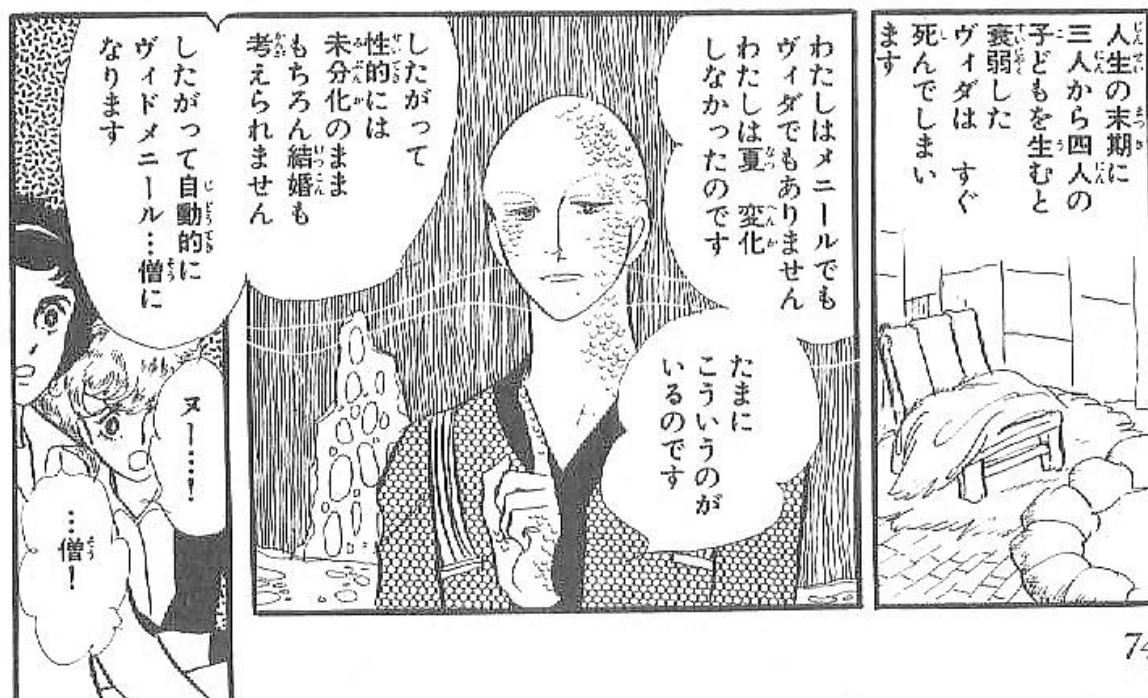
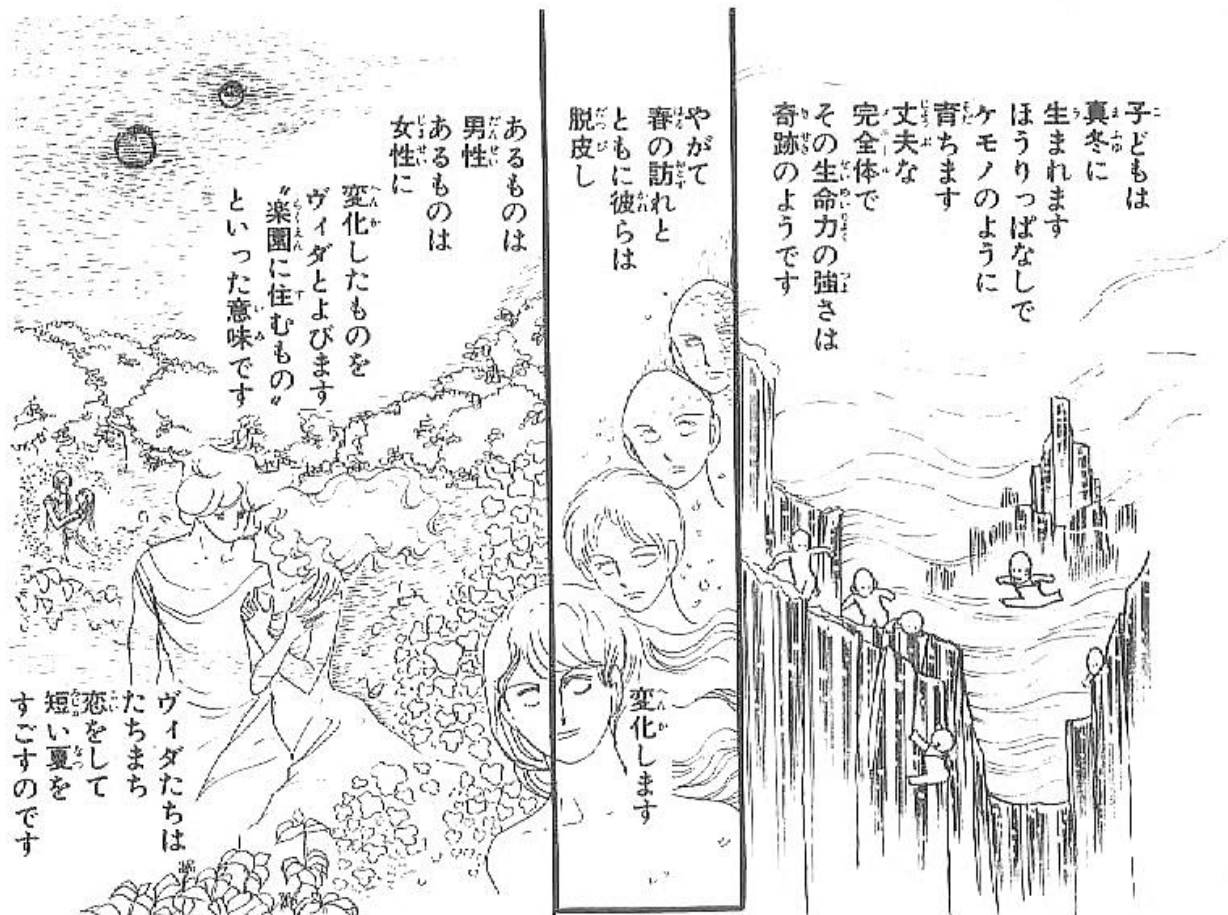
さぞきみの国では
女性文化が発達して
女性には
住みいいんじゃないか



そりや
女はきれいだよ
外見はね

でも
それきり
だもん





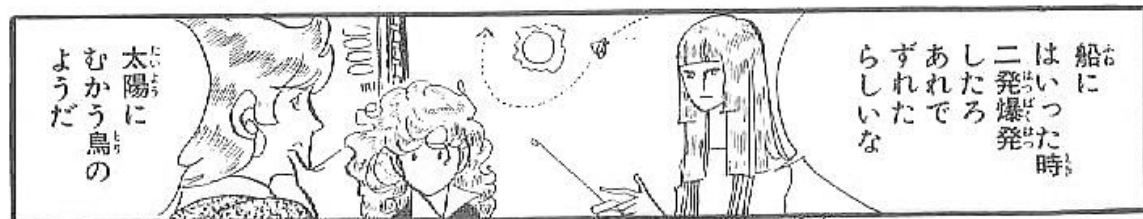
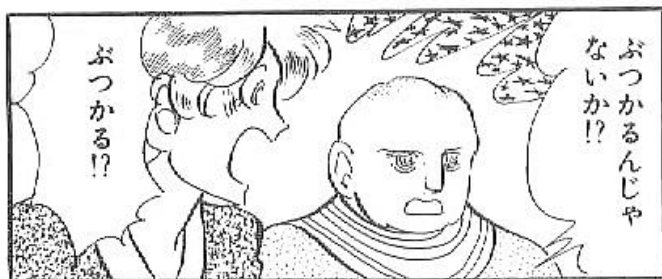
長命のヴァイドメニールには
十以上の夏をすごしている
ものもいます
わたしはまだ三十八
ひと夏をすごしたばかりです

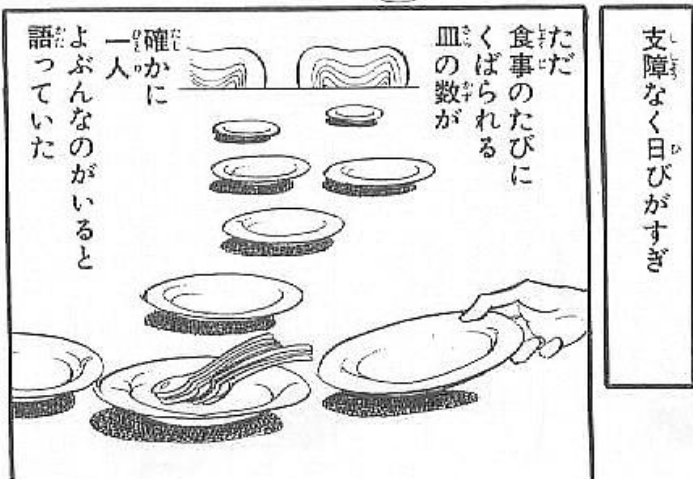
このウロコが
ある限り何年でも
生きられるのです

きみが
僧なら
ヌー
きみの
宗教の
テーマは
なんだい

すべて
運命

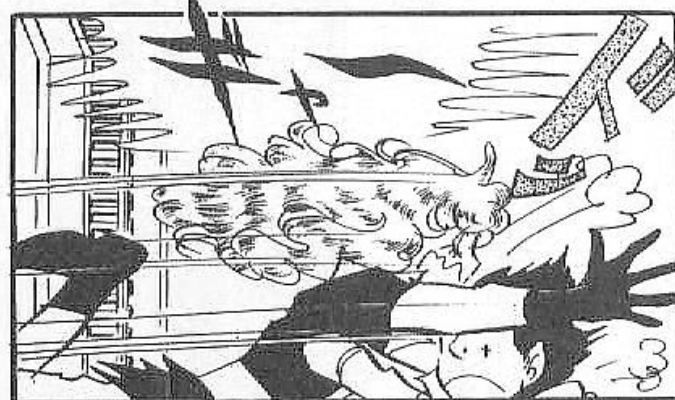
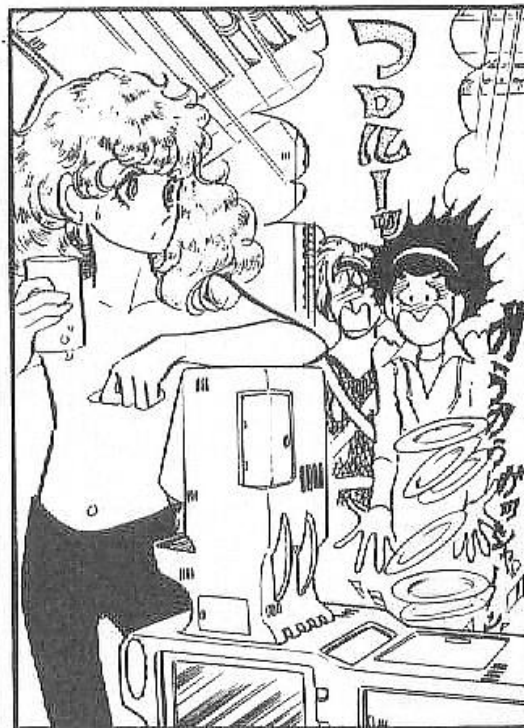
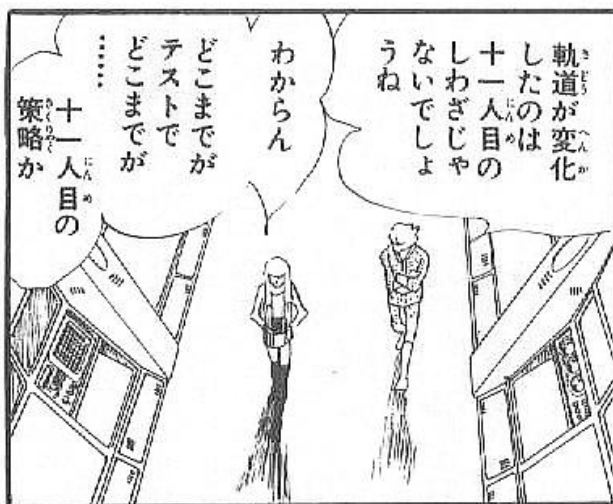


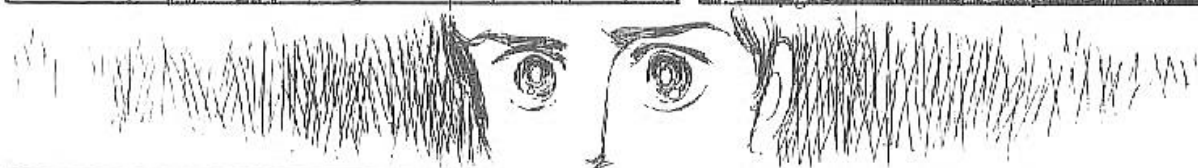




二十九日目
さらに三度
あがる











高熱
赤ハシ

嘔吐

局部マヒ

予防薬
弱生菌による
ワクチン

数が



一定熱量に達すると表皮は自己防御のため白い結晶体を作りだし断熱をおこなう



この結晶体には発見者デルの名によるデル赤ハシ病の

ウイルスがしばしば発生する

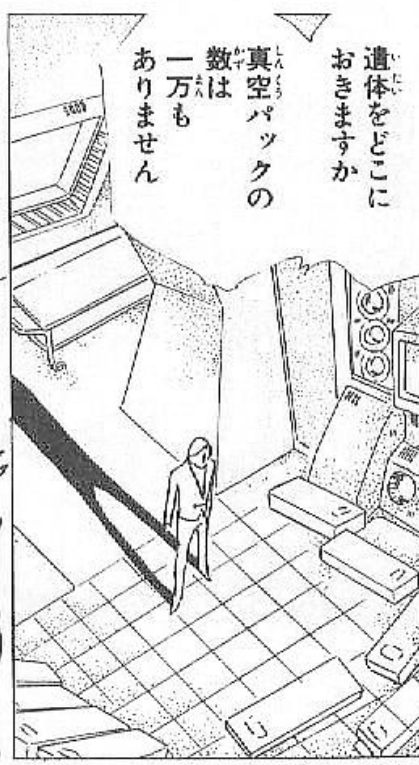


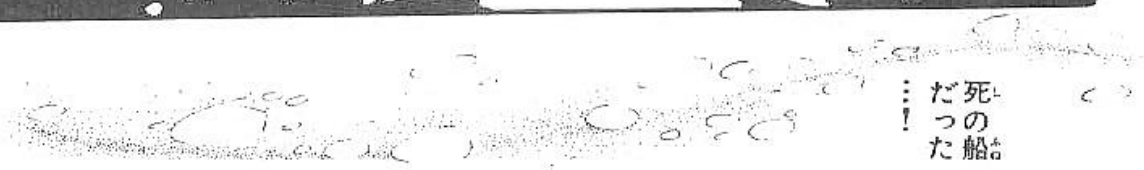
かきられる

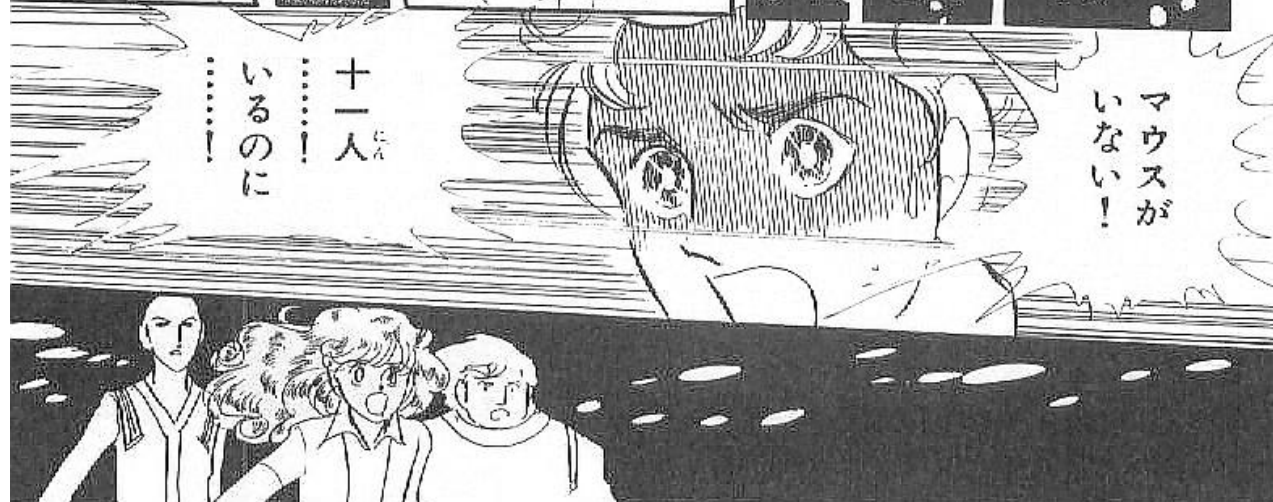
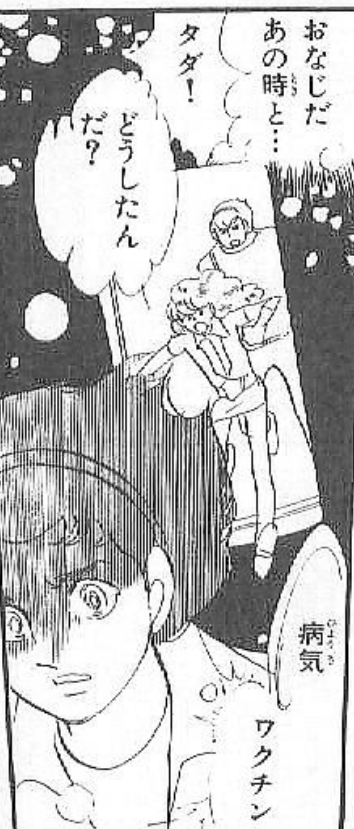
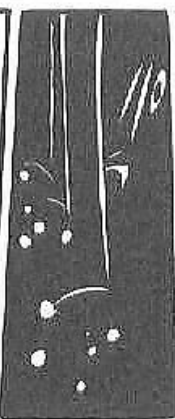
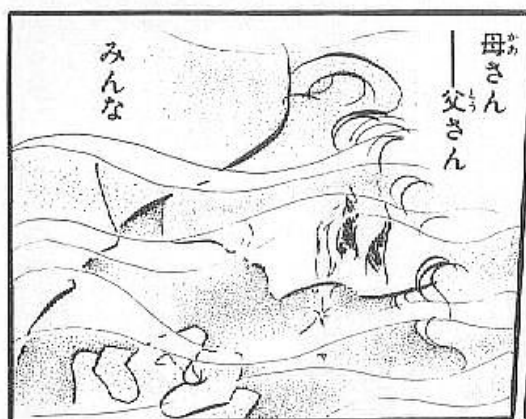
マウスがもう

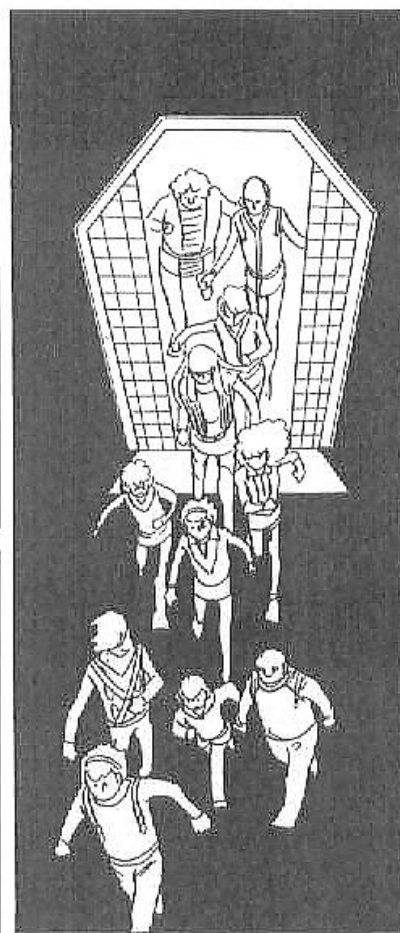
いません

タダ!









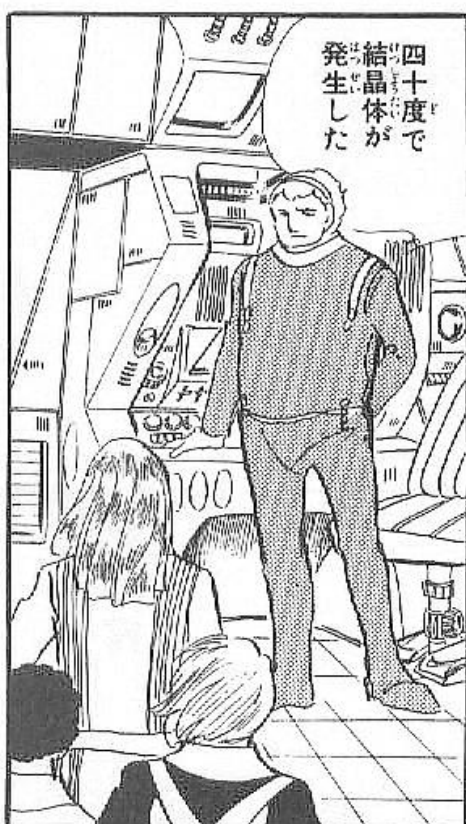


ちなみに
死亡率
九十三%
嘔吐赤
局部マ
高熱



デル
赤ハ
イル
スだ
活発
なも
んだ

こいつ
か?



四十度
で結晶
体が
発生
した



四十四
日目だ!



九日後!

船内が
四十度
に達す
るは……?



マウス
なんか
いないぞ
どうする
んだ!!



この病
気に
かか
って死
んだ
マウス
から
なら
予防
ワク
チン
がと
れる

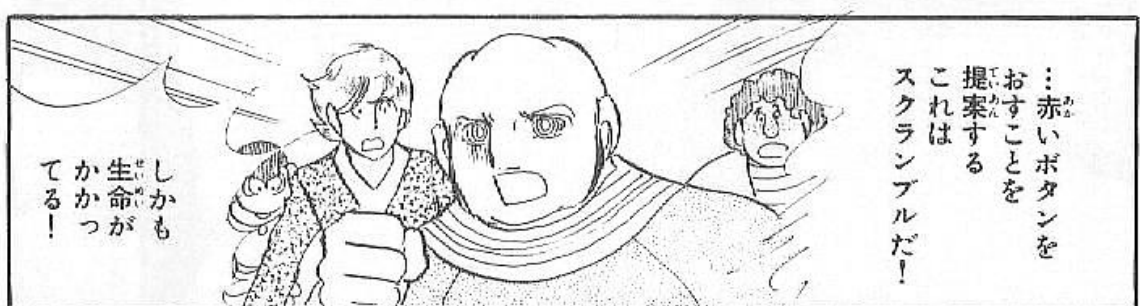


なんだと……!
じゃオレ
たちは
死ぬのか!

九日後に!?

からだ中
に赤ハ
ンが
でき
て!?

クスリは!?

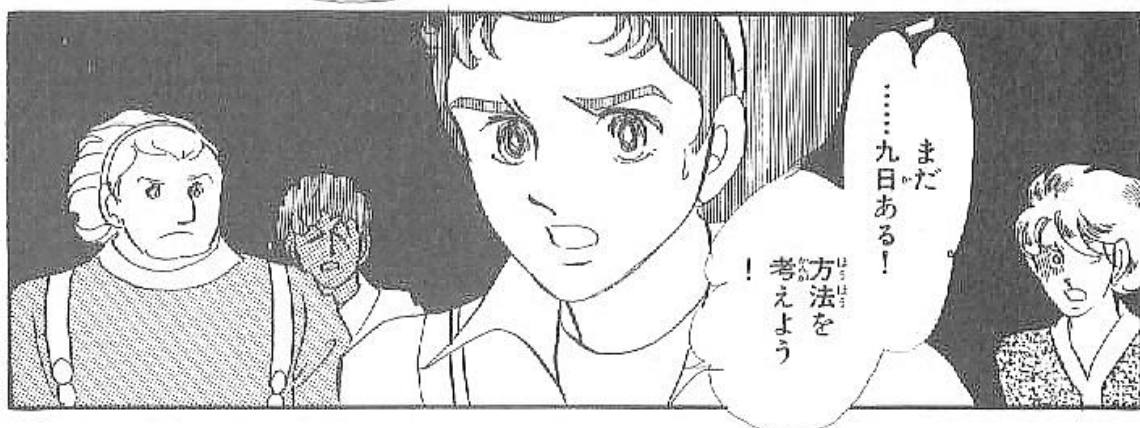


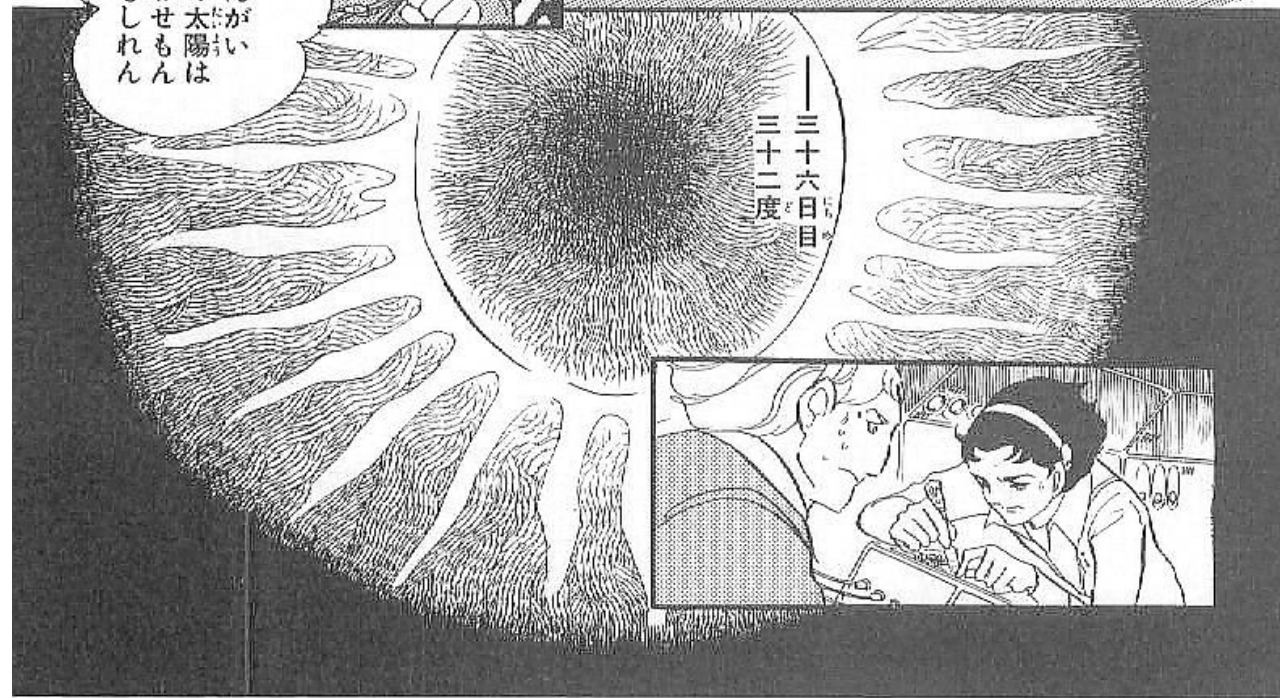
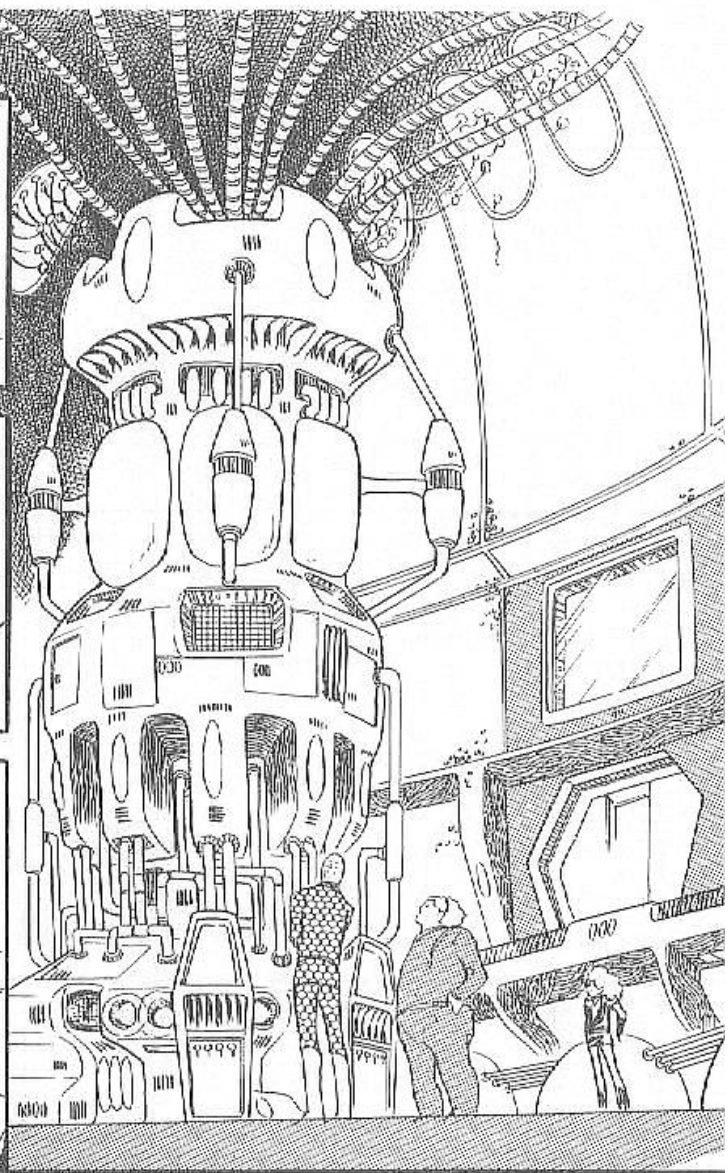
赤いボ
タンを
おすこ
とを提
案する
これは
スクラ
ンブル
だ!

しか
も生
命が
かか
つて
る!



最終テスト!
ここまできてよ!







—三十七日目
三十三度

今日の
当番はだれだ
スープにフオークが
はいつてるぞ



わたしの胃に
あなをあげる
気か!

ぼく—
うっかりして
—うっかり

よせよ王さま
この暑さだ
だれでもぼうつと
するさ!



タンクは
修理
できそうか

わからん



もう七日
しかないぞ
!

せい
いつばい
やつてるんだ



あんたは
コモフ領では
王さまかもしれんが
ここじゃ
実践的な
知識ひとつ持たん
デクノボーじゃん
かよ



なにも
できんくせに
ウダウダ
ぬかすな!

—よしな
さい!



不快指数が
ましてる

ちよつとした
ことでも
いらだつ

ムリもない



いっそ
ボタンを
おして
いっさい
おわらせ
たいぜ

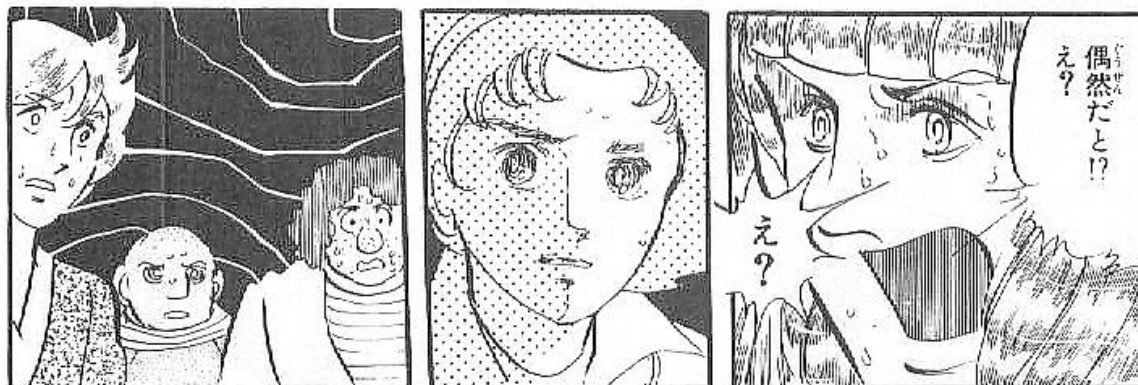
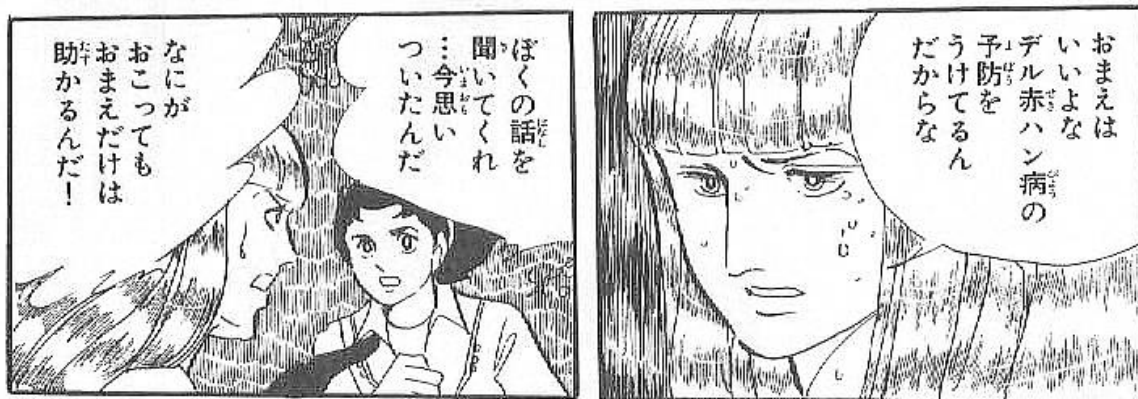
なんて
テストだ!



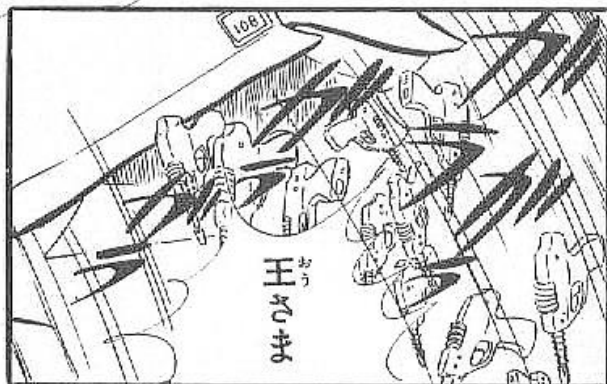
三十八日目
三十四度

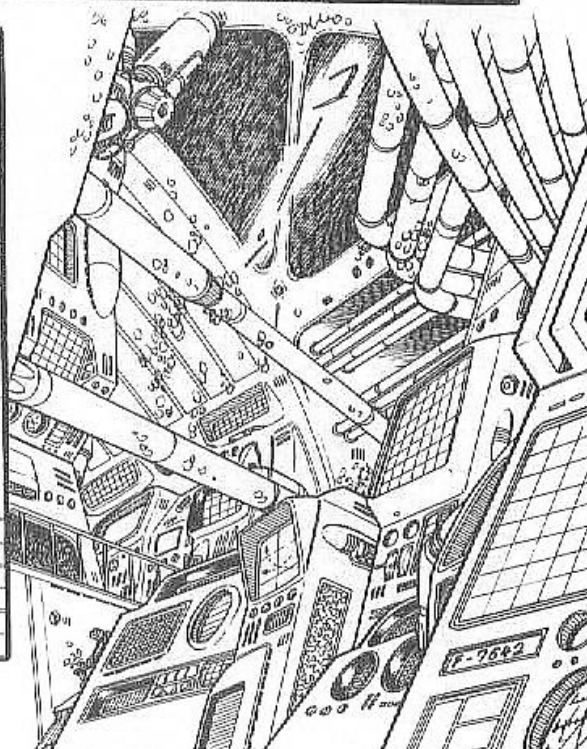
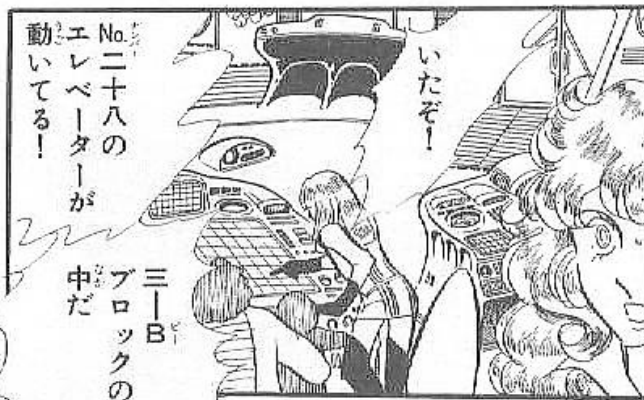


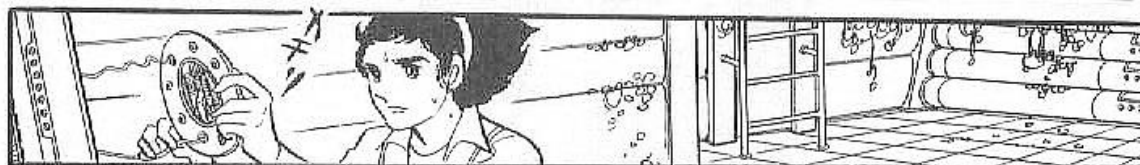


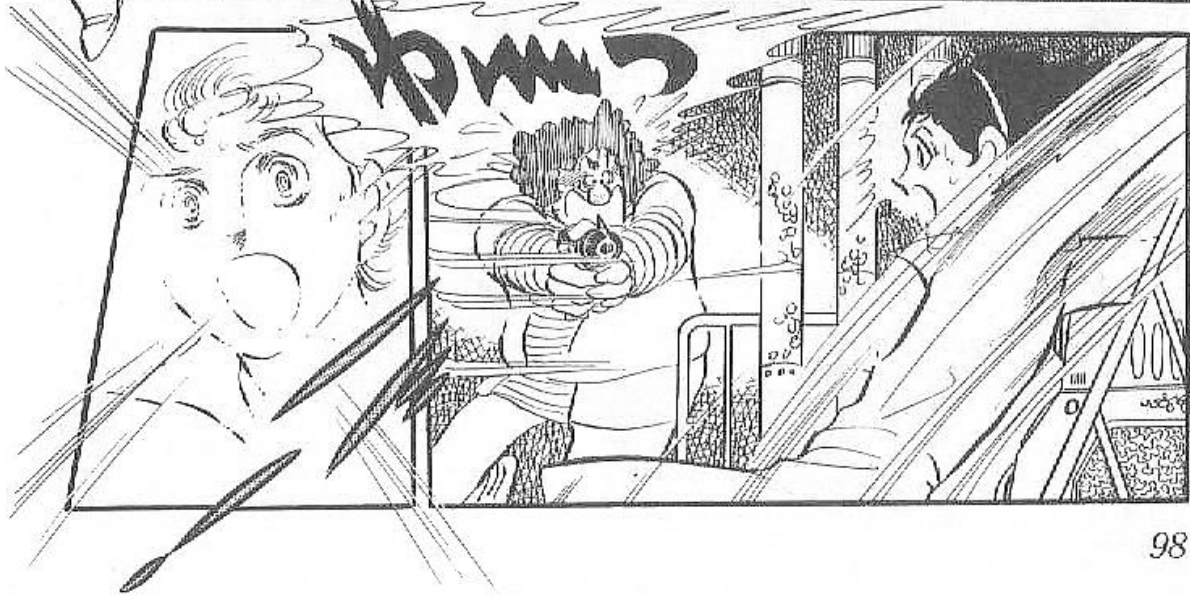
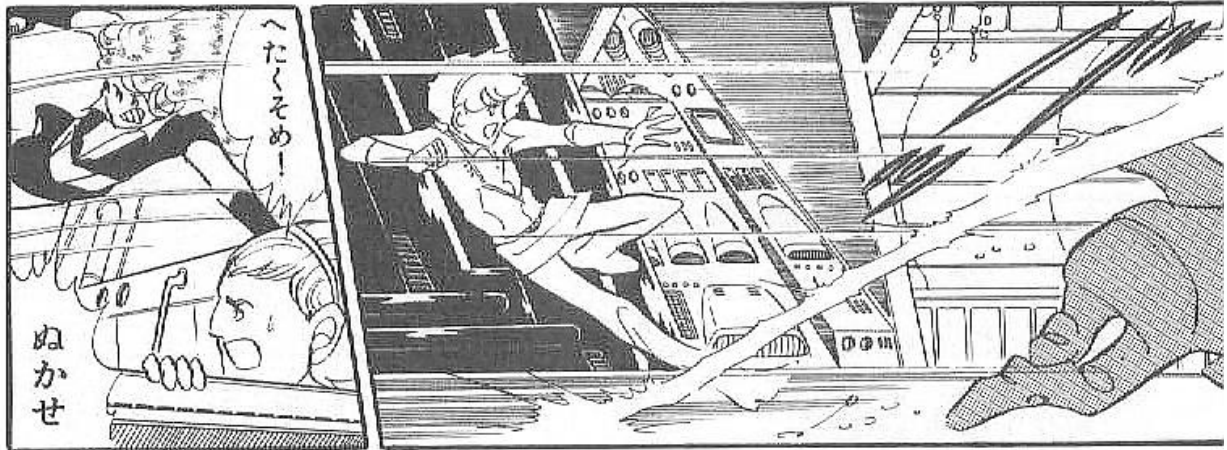




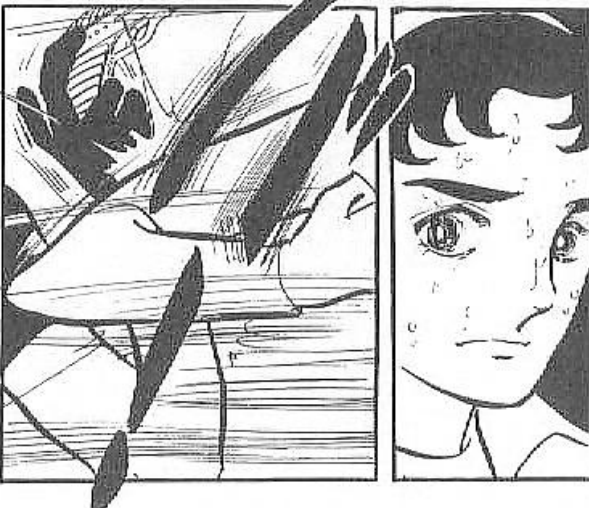








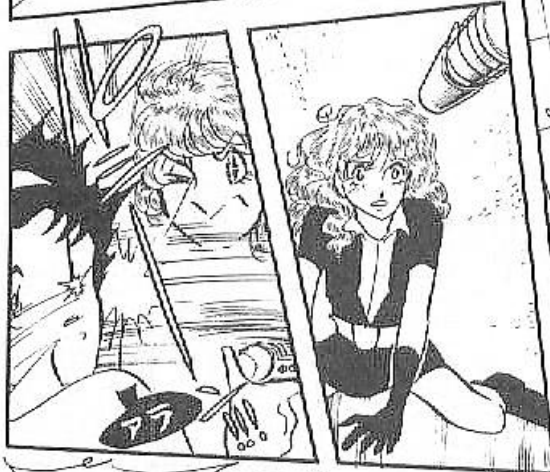






みんなを
呼んでこい！
ぼくはガンガの
医務室にいる
そこで取引きた

さあ



銃に屈した
勇気の
ないものと
思われるなら
死んだほうが
ましだ

：こんな
醜態は
初めてだ
殺すなら
殺せ！



わかった

なにか
たくらん
でるな



ぼくは
ガンガの
部屋に行く
みんなを集め
させてくれ

悪かったよ
返す

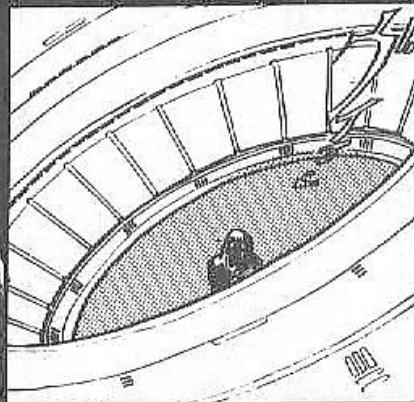








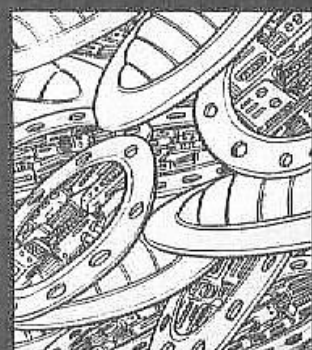
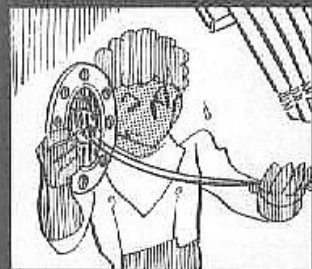
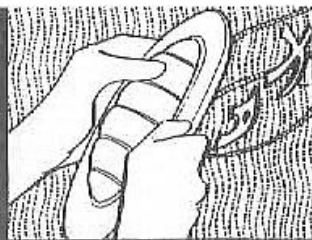




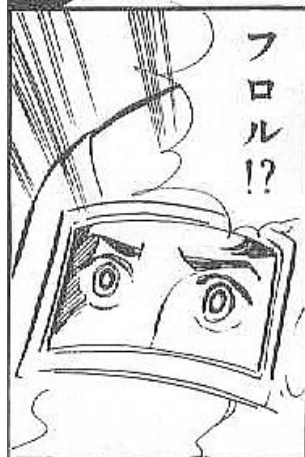
こいつを外に出しやいいのか

よし

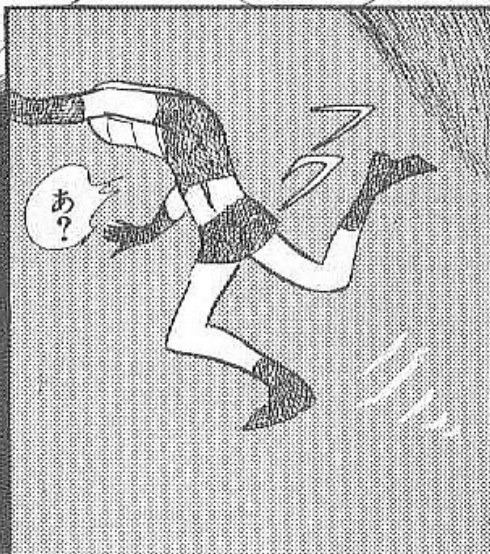
おー
ヘルメットをかぶったほうが
すずしい



絶対景



フロル!?

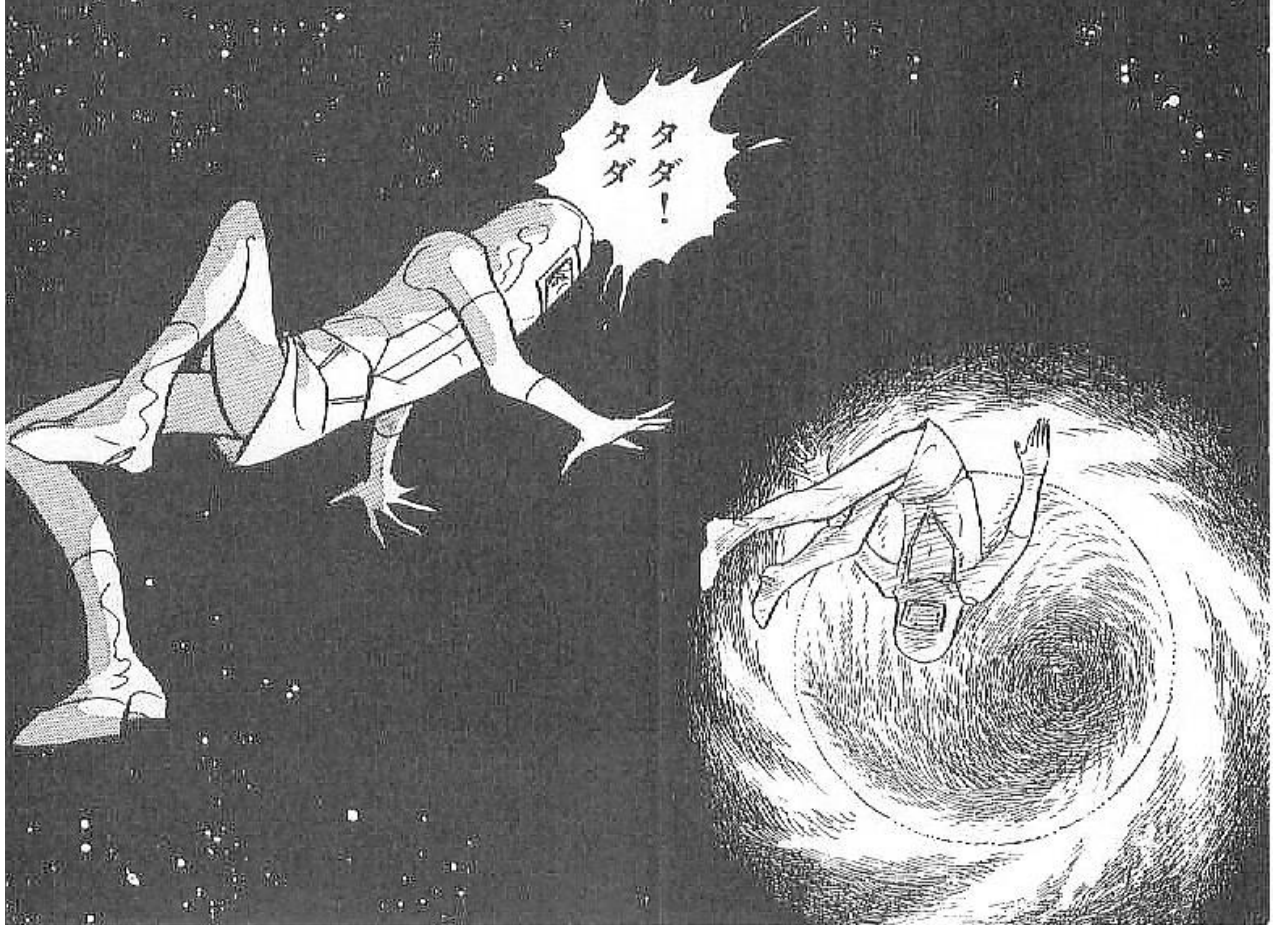
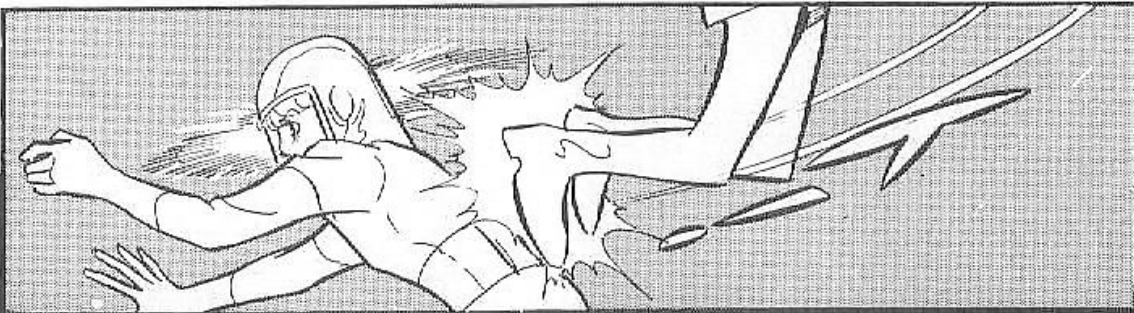
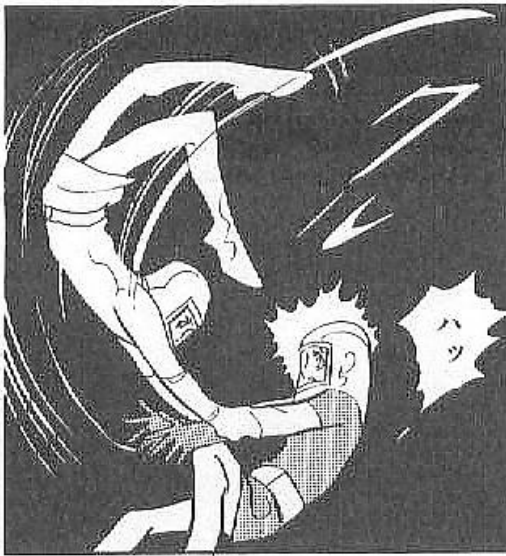


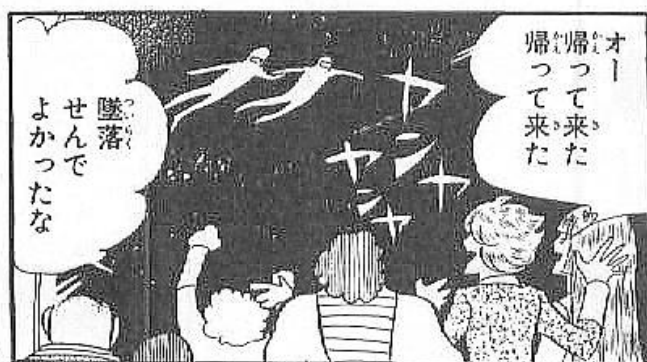
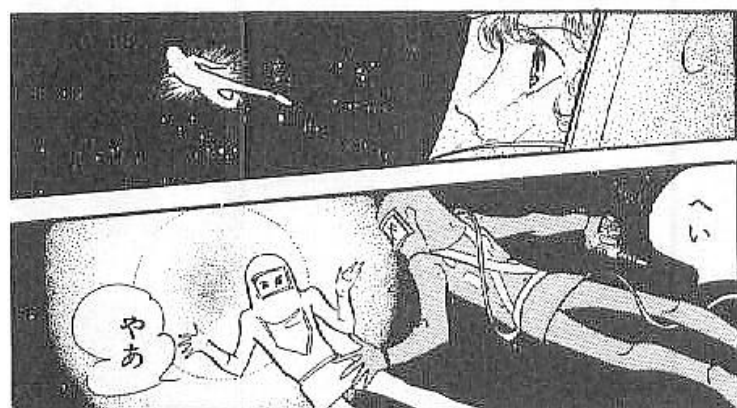
あ?

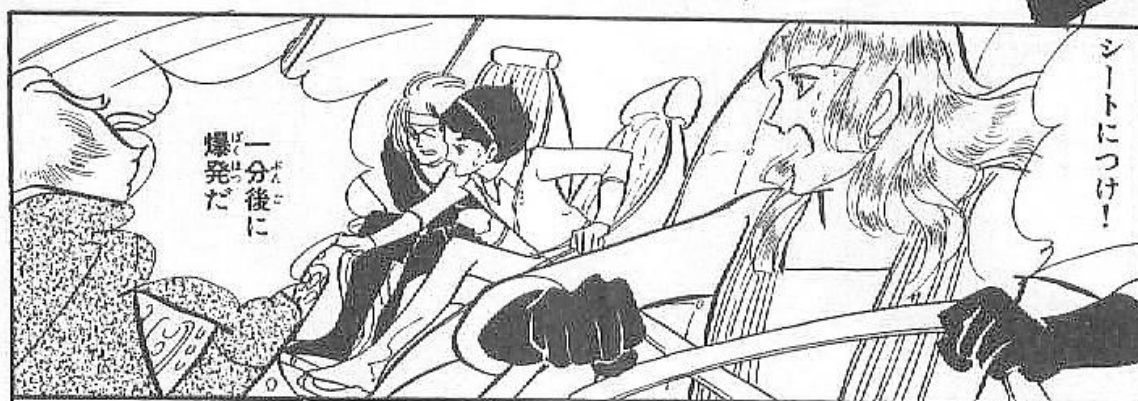


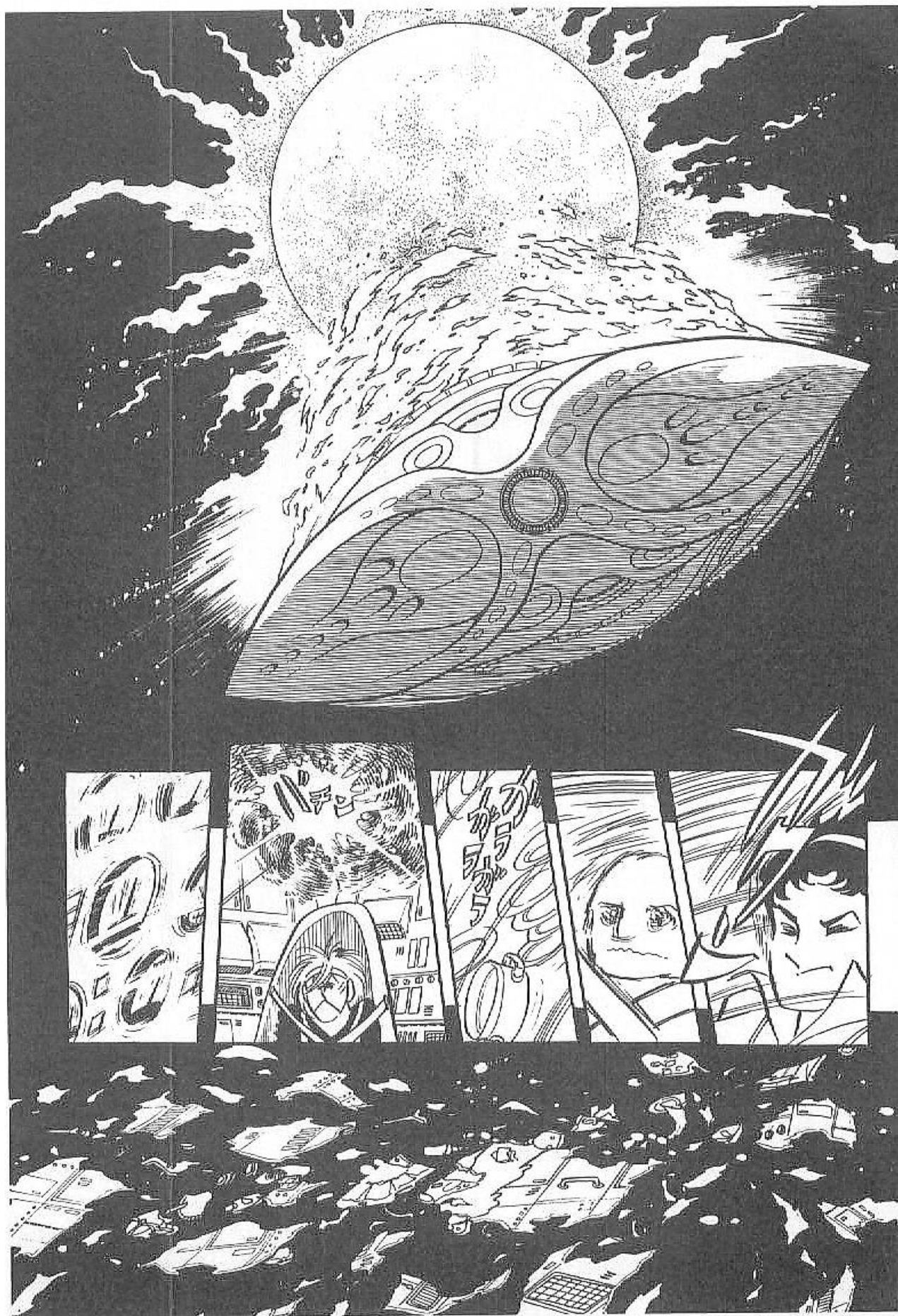
失礼

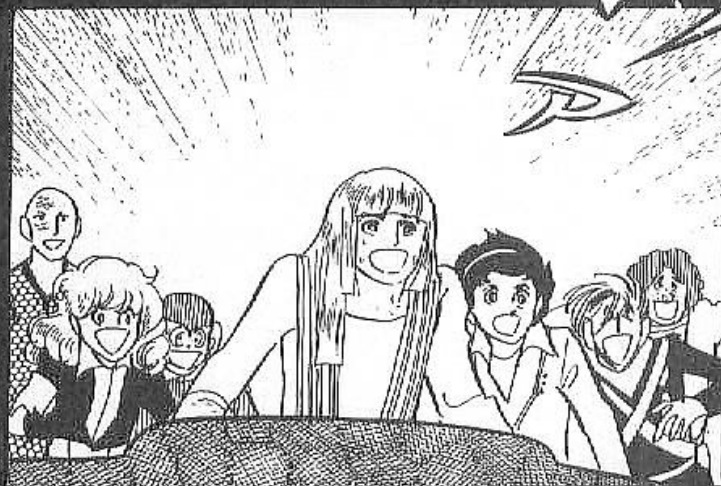












二 三日中には
温度もさがり
始めるさ



五日後—
四十三日目
三十四度



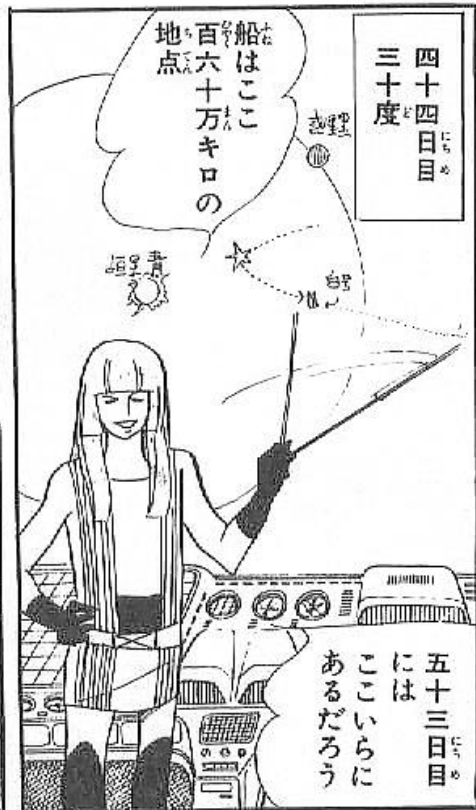
まあ いい
タイミング
だったな
ほい
つぎ

それが
ワクチンか？

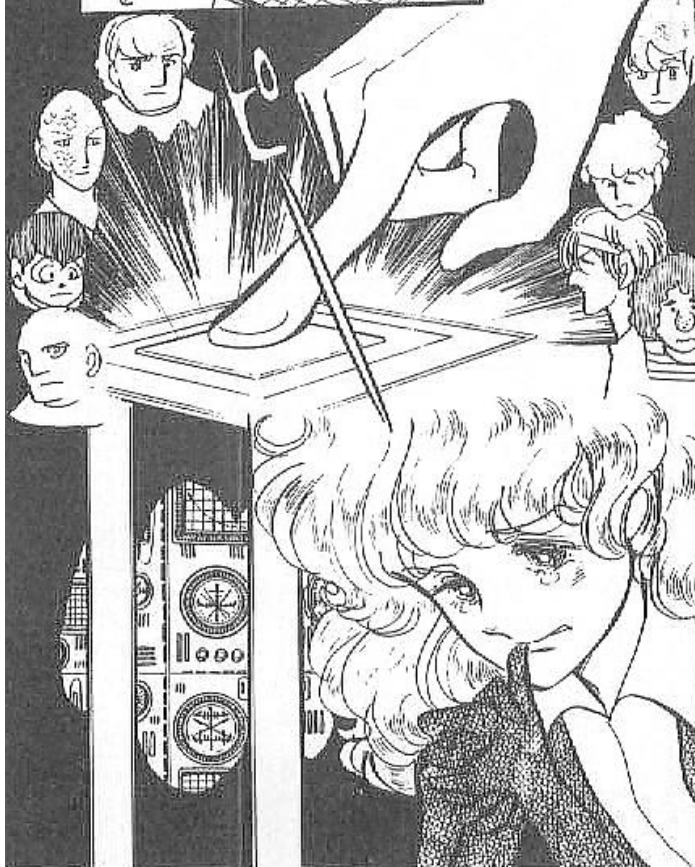
そ
当分結晶体は
発生して
るだろうな

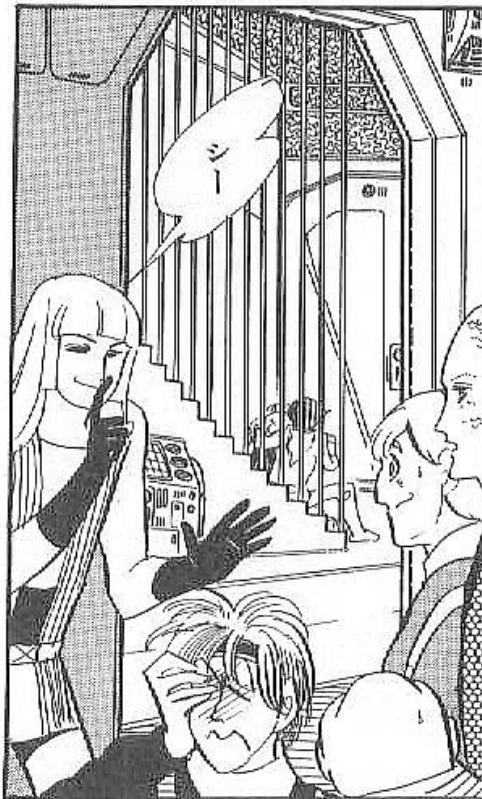
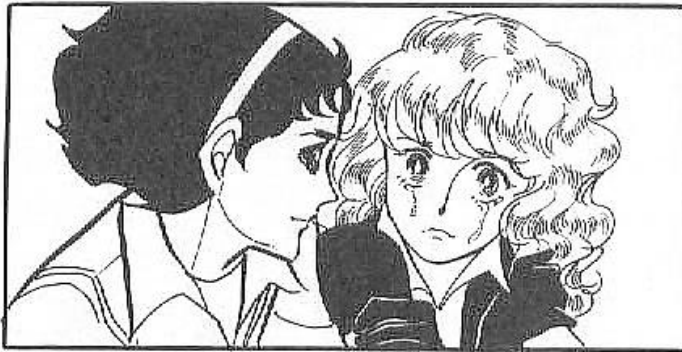


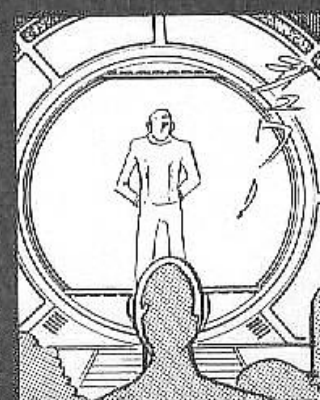
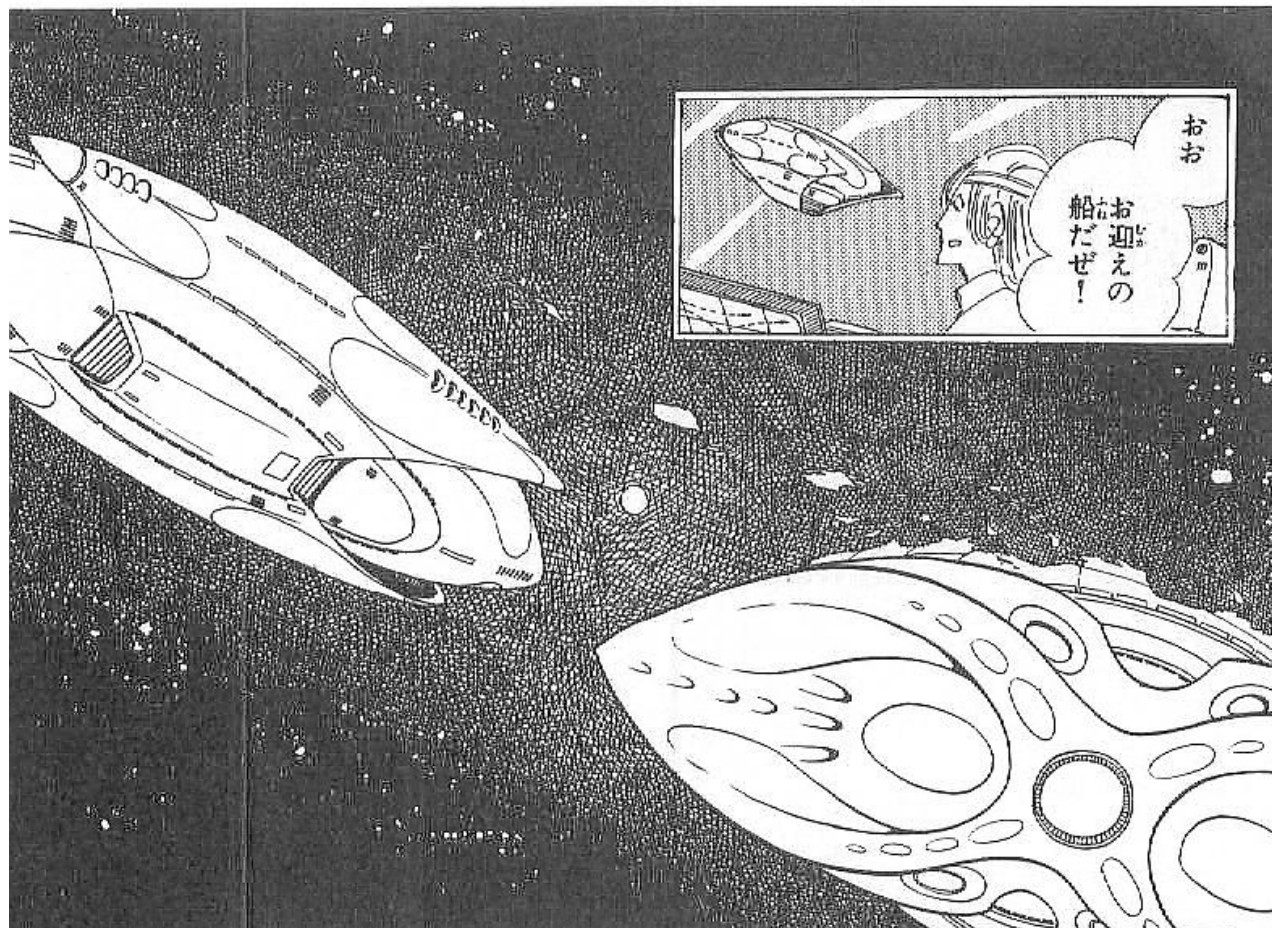
遠ざかる！

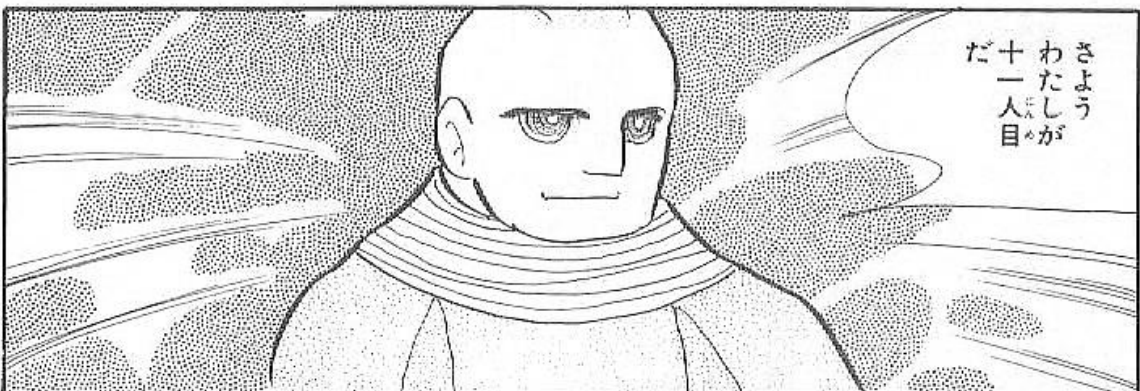
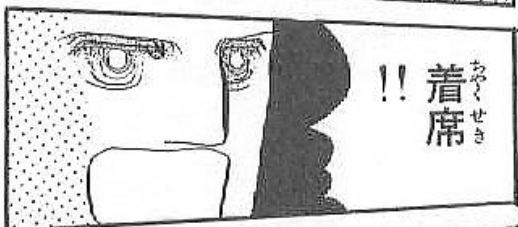
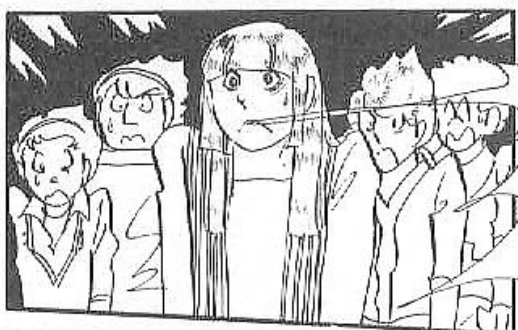














…最初から
組まれて
いたのか!!

大学の
ワナだ!

ある意味じゃ
タダの
言っただとおり
じゃないか



今回における
わたしの任務は
一受験生を
よそおって
グループにはいりこみ

五十三日までに
スクランブルをおこして
赤いボタンを
おさせること——と

受験生の
生命を
守ること
の二つだった



タダよりわたしの
テレパシーのほうが
まさっていた

そうおこるな
七十組すべて
一人多く
組まれたのだ

…なんたる
陰謀



コンピュータの
事故については
タダ ガンガともに
わびを言いたい

あれはわたしが
やったのだ

王さまがタダを
疑ってるのを
利用して
スクランブルを
おこそうとね

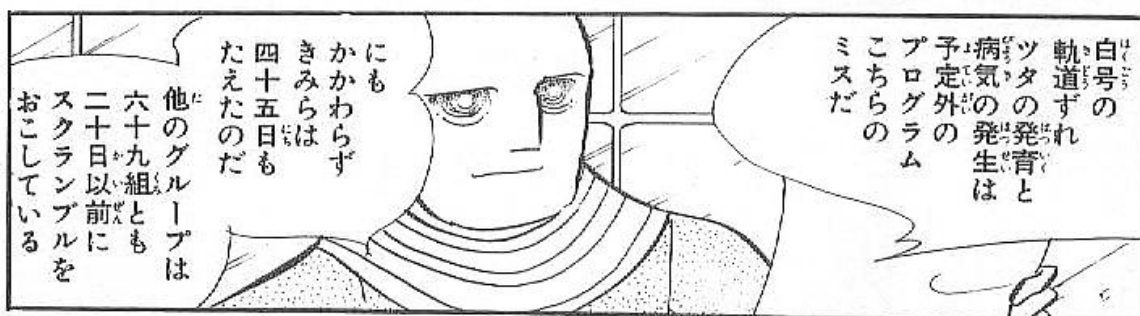
ただ
ガンガを
ショートさせ
ようとは
思わなかった
まったく
すまなかった



あまりいい
任務では
なかったがね
宇宙は
つねに変化に
みちている
概念が
通用しない
場合もある

事態は
急変する
的確で
す早い
判断力が
必要だ

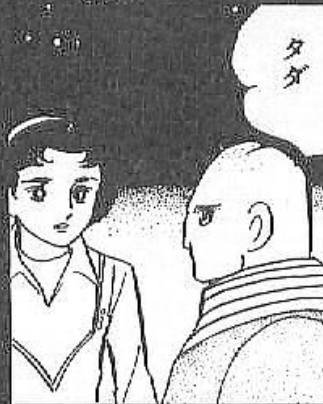
異常に
異端の
十一人目
が存在する
ような
ものだ





われわれは
故意にきみを
白号のグループに
入れたのだ

…ぼくを…



タダ



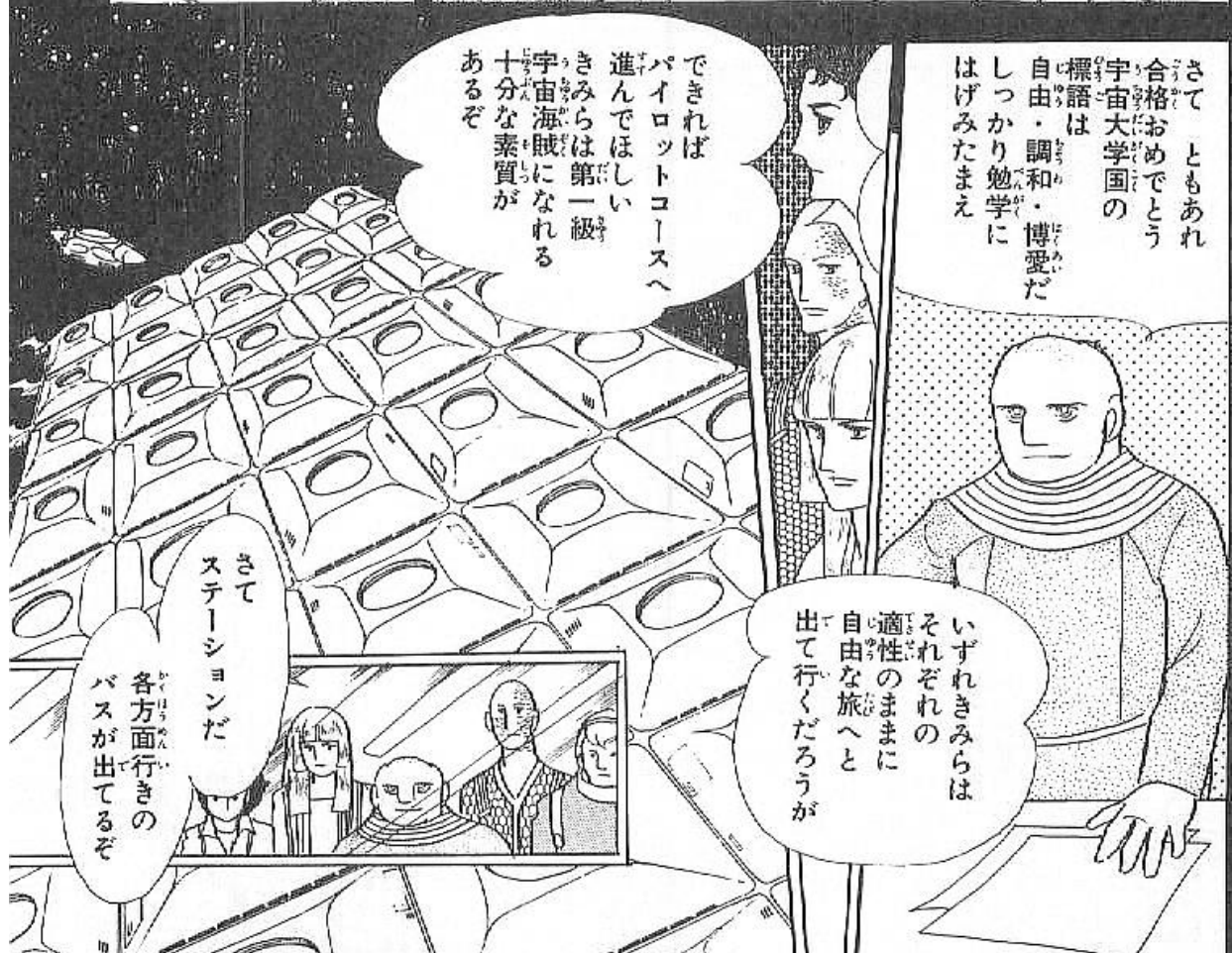
フロル…



ワクチンなしで
生命を
とりとめた
一人だ



そう
両親のことは
長老が語って
くれるだろう
あのかたは
宇宙大学の
われわれの先輩で
そして白号の
キャプテン
だった



さて、ともあれ
合格おめでとう
宇宙大学の
標語は
自由・調和・博愛だ
しっかり勉強に
はげめたまえ

できれば
パイロットコースへ
進んでほしい
きみらは第一級
宇宙海賊になれる
十分な素質が
あるぞ

いずれきみらは
それぞれの
適性のままに
自由な旅へと
出て行くだろうが

さて
ステーションだ

各方面行きの
バスが出てるぞ



